

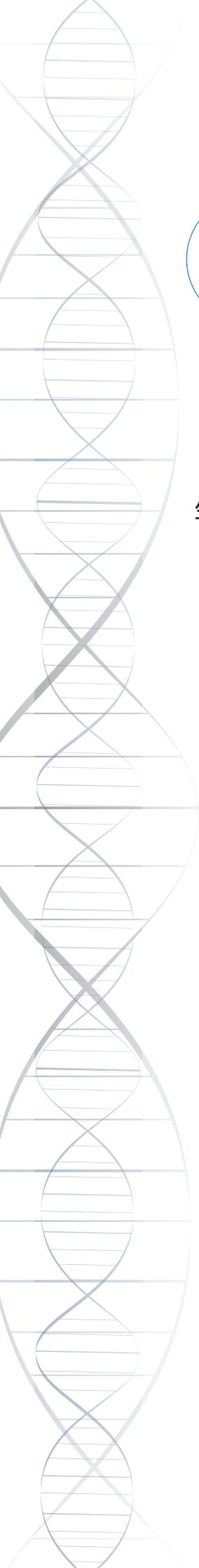
生命理工学へのご招待

Invitation to Life Science and Technology

 Institute of
SCIENCE TOKYO

東京科学大学
生命理工学院

Institute of Science Tokyo
School of Life Science and Technology



目次

御挨拶	3
生命理工学院の沿革・ルーツ	4
教育	6
カリキュラム	8
学生の活動・国際交流	10
大学院プログラム	12
進路	13
教員・研究紹介	14
センター・関連組織	33
入試案内	35

御挨拶

生命理工学院長 教授

桑 昭苑



生命理工学院は、1990年に東京工業大学生命理工学部として設立され、2016年に生命理工学部と大学院生命理工研究科が合体し、生命理工学院として新たな歩みを始めました。そして2024年、東京科学大学が東京工業大学と東京医科歯科大学との統合により誕生しました。この新たなステージにおいて、本学院では、これまでの伝統と最先端の科学技術、さらには医療・歯学との融合をより一層推進し、生命理工学のさらなる発展を目指してまいります。

生命理工学院では100名を超える所属教員のほか、総合研究院の化学生命科学研究所、細胞制御工学研究センター、未来社会創成研究院の地球生命研究所の教員なども加わり、総勢120名を超える教員が約70の研究分野を構築し、専門教育を展開しています。研究面では、学院内に最先端機器共同利用システムを構築しており、国内外の大学・研究機関・企業とも連携を強化しています。近年、感染症対策、少子高齢化、再生医療、バイオテクノロジーの進展など、私たちが直面する課題は複雑化してきています。これらの課題解決するための新興研究、異分野融合研究を積極的に展開しています。

教育面では、学士課程において生命理工学の基礎を徹底的に学びながら、最新の研究を体験する機会を充実させます。さらに大学院では、生命理工学コース、人間医療科学技術コース、地球生命コースなど、多彩な学びの場を用意し、専門分野の枠を超えた教育研究ができる環境を整えております。新規事業開拓に必要なアントレプレナーシップ教育も提供します。また、国際的な交流を積極的に推進し、グローバルな人材の育成に寄与することを目指しています。

本学院は、未来を担う皆さんが自由な発想と探求心をもって学び、研究できる場でありたいと考えています。私たちは、生命理工学の知識と技術を駆使し、人類の健康、環境の保全、社会に貢献できる人材を輩出することを使命としています。東京科学大学としての新たな一歩を共に踏み出し、世界をリードする研究と教育を実現していきたい。

皆さんと共に、生命理工学の未来を切り拓いていけることを心より楽しみにしております。

副学院長

総務 金原 数 教授

教育 伊藤 武彦 教授

研究 上野 隆史 教授

社会連携 鈴木 崇之 教授

入試DEI 田中 幹子 教授

評議員

山口 雄輝 教授

生命科学と理工学を融合し、 可能性を無限に。

私たちの社会は、この先どのように変化するのでしょうか。

ライフサイエンスとテクノロジーの融合と進展により、見えてくる未来があります。

生命理工学院では、生命原理の探求から工学的応用まで、さまざまな研究が幅広く展開されています。

ライフサイエンスとテクノロジーの知識と技術の結集により、未来社会への可能性を無限に広げます。

生命理工学院の沿革

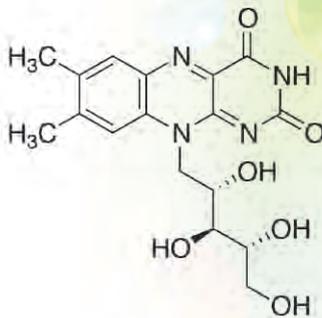
- 1929年 東京工業大学を設置
- 1990年6月 生命理工学部を設置
- 1992年4月 大学院生命理工学研究科が発足
- 1993年 秋 遺伝子実験施設が完成
- 1997年3月 生物実験センターが完成
- 1999年 研究主導型教育体制の確立を目指して大学院重点化による全面的改組を行い、大学院生命理工学研究科に分子生命科学専攻、生命情報専攻、生体分子機能工学専攻が発足
学部は、生命科学科、生命工学科の2学科体制に再編
- 2000年 バイオサイエンス専攻およびバイオテクノロジー専攻が改組され、それぞれ生体システム専攻および生物プロセス専攻として5専攻体制の研究科が新たにスタート
- 2001年 新しい学内施設としてアイソトープ総合センターが生命理工学研究科に近接して建設
- 2003年 上記の実験施設および生物実験センターとともに、バイオ研究基盤支援総合センターとして統合
- 2016年 学部と研究科を統一した生命理工学院が発足
- 2024年 東京工業大学と東京医科歯科大学が統合し、東京科学大学が誕生

生命理工学院のルーツ

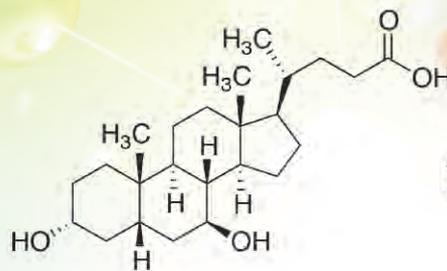


東京科学大学博物館に展示されているビタミンB2の試薬瓶

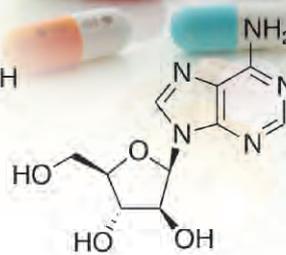
東京科学大学では、ビタミンB2を人の手で初めて作る
ことができるようにし、工業生産を可能にしました。
さらに、肝機能改善薬ウルソや抗ウイルス薬アラセナ
を生み出してきました。また、アルカリ酵素を発見し、
酵素配合洗剤の開発への道を切り拓いたのも東京科学
大学の研究者です。こうした研究が現在の生命理工学
院のルーツであり、生命科学と理工学分野を融合した
生命理工学部を全国に先駆けて設置しました。



ビタミンB2



ウルソ



アラセナ

**生命理工学院では、生命に関わる様々な領域で、
世界最高レベルの研究・開発を推進し、
数多くの優れた成果を打ち出しています。**

2016年ノーベル生理学・医学賞受賞 大隅良典栄誉教授からのメッセージ

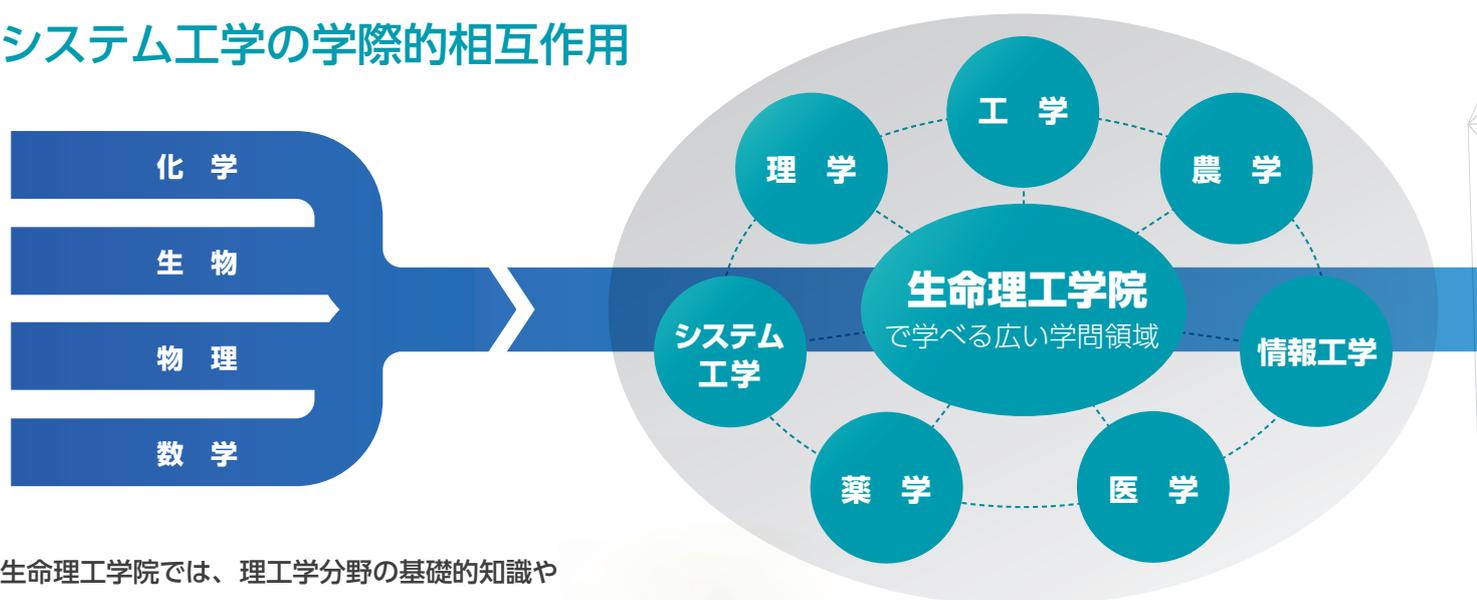
科学は人類が営々として築き上げてきた知の体系です。したがって私達科学を志す者の活動も、生きている時代と切り離すことはできません。私がオートファジーと呼ばれる生命現象に興味を持ち、酵母を使って研究を始めたのも、その1つの例です。自然界の成り立ちや法則性に対する私達の理解は加速度的に広がっていますが、まだまだ人間の及ばない沢山の未知の問題があります。解けたと思ったことも、それは次のステップの始まりにすぎません。科学や技術がもたらしてきた成果だけに眼を奪われることなく、大きな視点をもち、長い時間軸で考えること、さまざまなことに科学的な判断ができることが、人類の未来に大切であると私は思っています。

私からの若者へのメッセージは、未来に向かって思考しようということです。自分の前に何か凄い権威が有るように見るとすれば、それは学問が停滞していることを意味しています。先達を越えて行くのは当たり前だという若者の気概こそが、前進の原動力です。今日の膨大な情報に惑わされず、他人と違うことを恐れず、自分の興味や考えを大切に育てて下さい。そして自分自身が納得できる人生を、豊かに逞しく生きて欲しいと思います。



ライフサイエンスとテクノロジーを学び、 世界レベルの活躍が

理学・工学・薬学・農学・医学・情報工学・
システム工学の学際的相互作用



生命理工学院では、理工学分野の基礎的知識や生命理工学分野の基礎専門力を体系的に修得できる充実したカリキュラム、創造性・表現力等を育むことを目的とした教養教育、そして最先端の研究を核とした高度な専門教育等、ライフサイエンスとテクノロジーの科学技術分野を先導・牽引するための教育を実施します。充実した実験と演習を通して生命現象の理解を深めるとともに、海外研修、インターンシップを体験することで国際的に通用する能力も修得します。生命理工学に関連した科学技術の発展に資する課題解決力と、国際的倫理観を備えた理工系人材を養成することを目的としています。

学士課程の特長

- 幅広い分野から生命理工学を学べる国内最大規模の教育研究組織
生命理工学系は、ライフサイエンスとテクノロジーに関する理工学分野を理学や工学のみならず、薬学や医学、農学の観点から幅広く学べる、国内最高の規模を有する生命系学士課程です。
- 1年目から「バイオものづくり」研究が体験できます
バイオに関連したものづくりに関する研究を複数名のグループワークとして実施し、自ら考え、チームワークを発揮し成果を出す取組により、課題発見力と課題解決力を鍛錬します。
- 海外留学やインターンシップを推奨します
大学間の協定による交換留学（長期・短期）や短期派遣プログラムを利用した海外派遣、企業へのインターンシップの体験を推奨しています。これらの取組も単位として認定されます。
- 早期に大学院科目の履修ができます
ほとんどの学生が大学院修士課程に進学します。学士課程の早期卒業制度や学士課程4年目から大学院修士課程の授業を早期に履修する制度もあります。

る人材を育てます。



大学院課程の特長

●化学、物理、材料、情報にまでおよぶ最先端研究を実施できます

生命理工学院は、約80名の教授と准教授等が、ライフサイエンスとテクノロジーに関する最先端研究を幅広い分野で実施しています。その研究分野は、生物系のみならず化学系、物理系、材料系や情報系にまたがる理工学分野です。

●国際的な環境で研究を実施します

海外から卓越した研究者が多数来訪し、共同研究やセミナーを実施しています。また各研究室には多くの留学生が在籍しています。学内においても国際的な考え方や研究力を養う環境が整っています。また、生命理工学院での海外派遣プログラムや教員の国際的連携を通じて、海外の研究室や企業、国際会議への積極的派遣を推奨します。これらの取組も大学院の単位として認定されます。

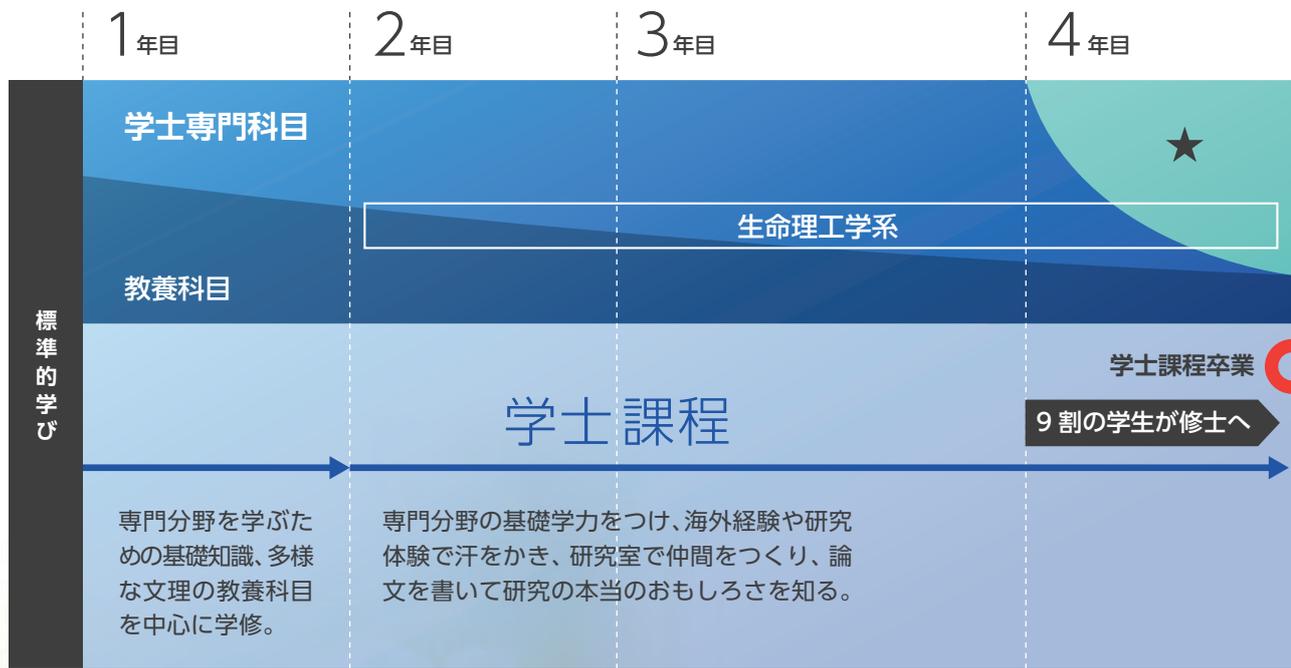
●幅広く多様な学びに対応して就職先も様々に広がっています

生命理工学系で学ぶライフサイエンスとテクノロジーは、化学、生物、物理などの理学分野のみならず、材料、機械、情報などの工学分野を含むあらゆる応用分野と関係しています。生命理工学系で学び、いろいろな分野の企業等に就職できます。

夢を叶える新しい学びの

東京科学大学では、学士課程・修士課程・博士課程を継続的に学修できる一貫した教育カリキュラムを設定しています。

生命理工学院の学士課程では、生命に関連した理工学専門科目の基礎を学び、4年目には、特定課題研究(卒業研究)で最先端研究のスタートにつきます。



★「何をどれだけ学んだか」

学士課程

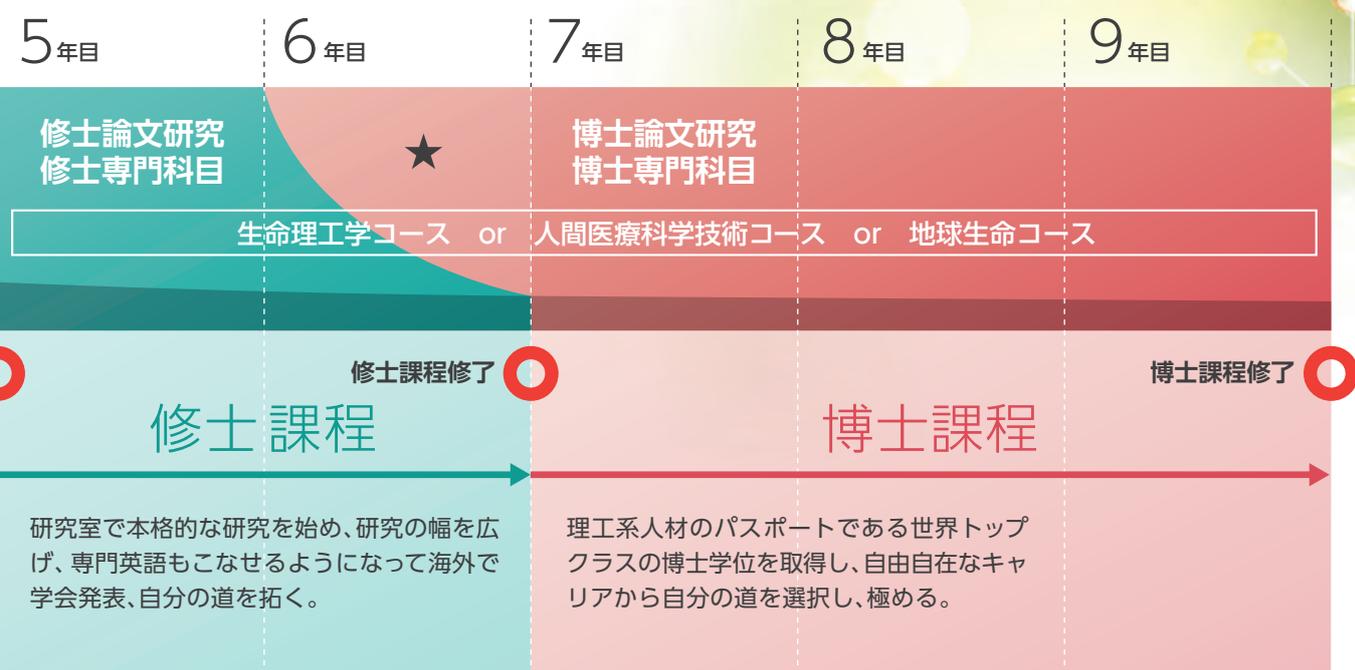
1年目	2年目	3～4年目
生命科学基礎 化学熱力学基礎 量子化学基礎 有機化学基礎 無機化学基礎 線形代数学 線形代数学演習 微分積分学 微分積分学演習 力学基礎 電磁気学基礎 生命科学基礎実験 最先端生命研究概論 科学・技術の創造プロセス 生命理工学院リテラシ 国際バイオ創造設計	物理化学 有機化学 生物化学 分子生物学 基礎生物無機化学 遺伝学 生物化学工学 生命情報学 生命統計学 バイオ機器分析 発生生物学 イノベーション創出基礎 生命理工学基礎実験・演習	生物物理化学 構造生物学 生命情報学 2 生命情報学 3 生物有機化学 生体高分子材料 高分子科学(生命理工学) 生命金属科学 医薬品化学 植物生理学 光合成科学 動物生理学 進化生物学 微生物学 細胞工学 環境生物工学 遺伝子工学 生物科学基礎
		基礎神経科学 酵素工学 合成生物学 細胞生物学 生命倫理・法規 イノベーション創出実践 Scientific discussions in English (生命科学演習) 生命理工学特別講義 研究プロジェクト 学士特定課題研究 学士特定課題研究プロジェクト 生命海外研修 学士インターンシップ

科目一覧 (抜粋)

形を追求します。

■ フォーター制

1年間を4つの学期に分けるフォーター制を導入しています。フォーター制は、履修計画を柔軟に調整しやすく、海外留学やインターンシップに参加しやすい制度です。



を評価して進む、達成度進行で学修します。さらに一定の要件を満たした学生は上位の課程の科目を学修できます。

修士課程

最先端の研究から学ぶ

研究室に所属して最先端の研究を行います。理解を深めるとともに実践力を養い各自の道を切り拓いていきます。



博士課程

ライフサイエンスの未来を担う

さらに高度の研究活動を通じて、国内・国外のライフサイエンス分野で活躍していきます。



東京科学大生向けの支援情報（授業料免除、各種奨学金、寮、就職サポート関係など）の詳細は、以下にアクセスして下さい。

学士課程：<https://admissions.titech.ac.jp/student-support/admission/support>

修士・博士課程：<https://www.titech.ac.jp/student-support/prospective-students/support>

学生が主体的に学修できる 仕組みと環境を創っています。

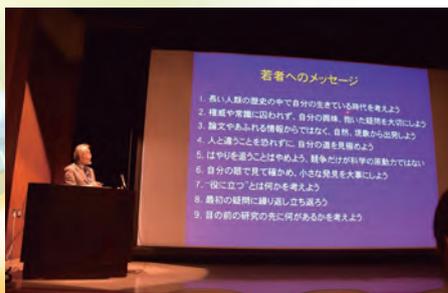
急成長するライフサイエンス、バイオテクノロジーの分野では、時代を切り拓き、国際的に活躍できる人材が求められています。生命理工学院では、学生が主体的に取り組めるさまざまな活動を支援し、世界中の学生や研究者たちと直にふれ合い、交流を重ねる機会を提供しています。

東京科学大学チーム 合成生物学の世界大会で 金賞を連続獲得



国際的な合成生物学の大会である「iGEM世界大会」は、世界各国から約200の学部生主体のチームが参加します。生命理工学院の学生を中心に結成された東京科学大学チームは、金賞の11年連続受賞という世界記録を保持している伝統のあるチームです。

世界的研究者とともに ライフサイエンス研究の 未来を見つめる



国内外の超一流の研究者を招き、学部生・大学院生、若手研究者を対象とした「国際シンポジウム」や「トップリーダーフォーラム」を実施しており、世界を牽引する研究者になるための心構えや見識を深めています。

自ら学び、自ら考え、 創意工夫しながらアイデアを かたちにする



学士課程1年生から、科学・技術の創造プロセス、国際バイオ創造設計、先端バイオものづくり等の科目で創意工夫しながらアイデアをかたちにするトレーニングを積み重ねます。コンテスト形式で成果発表する機会もあります。

海外でのワークショップや 研修等



東京科学大学では、グローバルに活躍するリーダー人材の養成を目指して海外でのワークショップや研修などを実施しています。

在学中に海外の研究室へ留学して 異文化を学ぶ

海外インターンシップ制度などを利用して、世界各国の大学・研究機関を訪れることができます。学生同士や研究者との交流を通じて、ライフサイエンス分野で国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。



アメリカ・マサチューセッツ
Massachusetts Institute of
Technology にて



ドイツ・デュッセルドルフ
Heinrich-Heine-Universität
Düsseldorf にて



アメリカ・コネチカット
University of Connecticut
Health Center にて

留学体験者からのレポート

川村ひなたさん (取材当時修士課程2年生)

Imperial College LondonのGilestro研究室に3ヶ月間滞在した。アカデミアの本場ともいえるイギリスでは、とにかく「本質的」なことが最優先されていた。例えば、日本では先生が言うことにあまり反論しないが、イギリスでは違っていた。論理と論理の戦いである。こうした議論のなかで、一人では到達できない答えにみんなで到達することができる。この文化は強いと感じた。この海外インターンシップは自分にとってとてつもなく大きな経験となった。この経験を無駄にせずこれからの研究生活を楽しんでいきたい。

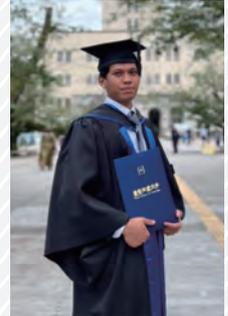
今田 貴士さん (取材当時修士課程2年生)

Harvard Medical SchoolのPamela Silver研究室にて5か月間のインターンシップを行った。画像解析やイメージングなどの新しい技術を学べたことに加えて、アメリカと日本の大学・研究室のシステムの違いを実感できたこと、現地で様々な研究者に出会ったことが大きな財産になった。日本の研究者はアメリカの研究者に追従するのではなく、もっと尖ったオリジナリティーのある新しい分野を開拓できるような研究をするべきだと今回の留学を通じて考えるようになった。

研究室で活躍する先輩達

大学院 博士課程 Mutawakil Al Muqadasiさん

I am an Indonesian student at the School of Life Science and Technology. As a foreign student in Japan, the language barrier has been a great challenge. Even so, my fellow students here are very helpful thus making me enjoy every process of my research. Moreover, it is a blessing to have supervisors who are always there for me to give valuable insights and mental support, hence making my life as a student easier. Overall, it is an excellent opportunity to study at Science Tokyo. I hope I can implement my knowledge and experience that I learn to help society in the future.



大学院 修士課程

竹田 陽太さん

私は現在、ニワトリ後肢の発生過程のメカニズムに関する研究を行っています。研究室に所属してすぐは、分からないことばかりでしたが、研究室の先輩たちに親切にして頂いたおかげで今も毎日楽しく研究できています。将来は東京科学大学で学んだ経験を生かし、さまざまな場面で活躍していきたいと考えています。



大学院 修士課程

奥居 美音さん

私は、所属研究室で見つけられた抗生物質の類縁体を発見し、研究を進めています。研究者に憧れていた私にとって、1年早く研究室に所属し、博士課程まで一貫したサポートを受けられるB2Dスキーム等、研究活動のサポートが充実している本大学は理想的な場所です。親身になって下さる先生方や同期に恵まれ楽しく過ごしています。



国際大学院プログラム <https://www.titech.ac.jp/english/admissions/prospective-students/graduate-programs/igp>

International Graduate Program (IGP)

生命理工学院（旧・生命理工学研究科）では、平成19年度から留学生教育のために国際大学院コースを設置し、アジアを中心に世界各国から特に優秀な学生を集め、大学院教育を実施してきました。平成25年度からその国際大学院コースを改善・発展させた「国際大学院プログラム」を開始、さらに令和元年度からは新たなプログラムとして継続・発展させております。これらのプログラムには、修士課程、博士課程の他、修士課程と博士課程を一体化した博士一貫コースが設置されています。

国際大学院プログラムでは、創造性、実践性を養うとともに、英語能力、日本語能力も修得可能とし、持続可能な開発目標の達成を先導するグローバルな理工系の研究者・技術系人材を育成します。将来は我が国とアジアやその近隣諸国の懸け橋となり、生命理工に関する様々なイノベーションを担える国際的な理工系リーダーの育成を目指すものです。

生命理工学院には、「生命理工学コース」「人間医療科学技術コース（2025年4月開講）」「地球生命コース」があり、学生はいずれかのコースに所属します。



東京科学大学・清華大学 大学院合同プログラム <http://www.ipo.titech.ac.jp/tsinghua/>

Science Tokyo - Tsinghua University Joint Graduate Program

東京科学大学は中国清華大学と共同で、修士課程大学院合同プログラムを実施しています。科学知識と研究活動の経験を持ち、日・中・英の3ヶ国語を駆使し、日中文化に通じた人材を育成する国際的な戦略事業です。バイオコースは過去20年以上の歴史を土台とし、バイオおよびナノテクノロジー、社会理工学コースの3コースの中心的役割を果たしています。このプログラムは東京科学大学と清華大学が「双方向性」を持って共同で大学院のプログラムを運営し、教育研究を行うという高いレベルでの国際学術連携の枠組みを構築しています。また修士課程において、学生は東京科学大学および清華大学両方の修士号を取得することができるダブルディグリープログラムになっております。幅広い学際課題に対応できる人材を育成するとともに、国際協調を基盤とした日中の産業、文化の振興にも役立てるため、日本または北京で産学連携研究シンポジウムをおおよそ年1回開催して、教授・学生・企業人も参加して交流を深めています。このような力強い“国際貢献力”の備わった学生の育成プログラムは国内外で高い評価を受けています。

プログラム15期生（清華大学）

プログラム20期生（東京科学大学）

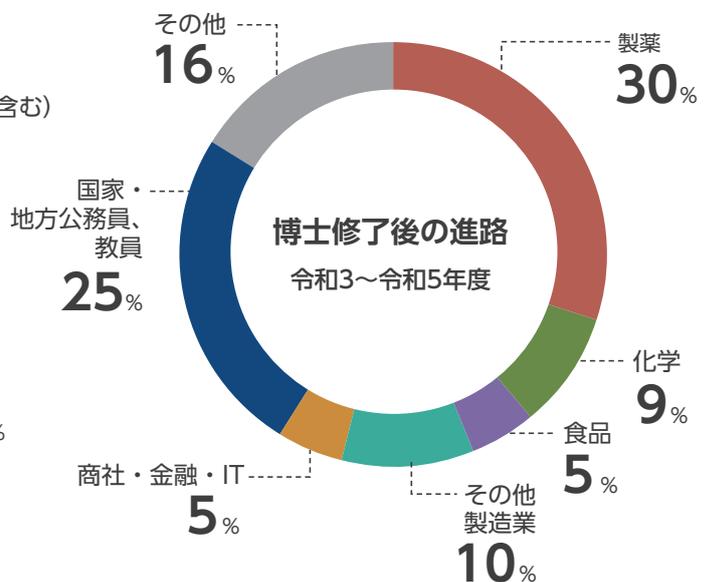
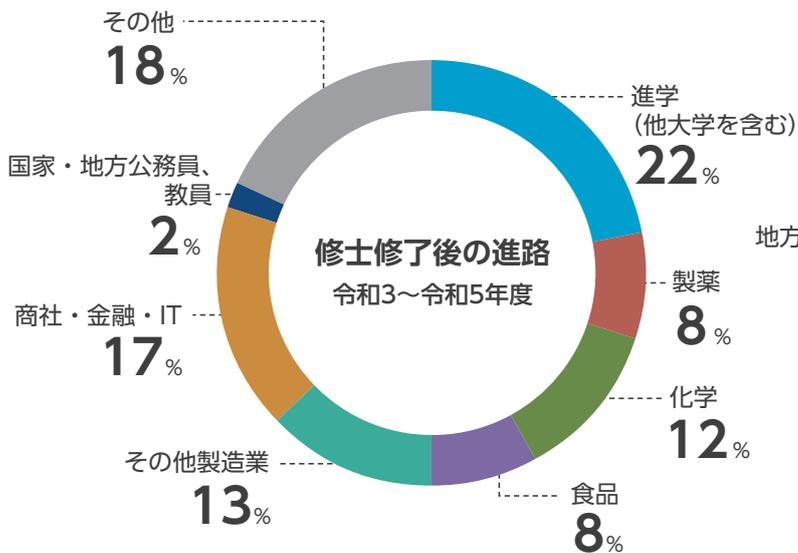


プログラム創設20周年記念セレモニー（2024年8月22日）

生命理工学院 卒業生の進路

約90%の学部生が東京科学大学の大学院に進学します。

平成28年度から生命理工学院では、学士・修士一貫教育を行っています。



【業種別就職先】五十音順

■ 製薬

アステラス製薬、アストラゼネカ、協和キリン、武田薬品、中外製薬、エーザイ、持田製薬、日本血液製剤機構、シミック、旭化成ファーマ、第一三共プロファーマ 他

■ 化学

旭化成、花王、JSR、住友化学、帝人、東レ、富士フイルム、P&G、三井化学、三菱ケミカル、ライオン、デュポン、日本ロレアル、AGC、ダウ・ケミカル、DIC、東ソー 他

■ 食品

アサヒビール、キューピー、味の素、森永乳業、ミツカン、ロッテ、エスビー食品、キッコーマン、サントリー、J-オイルミルズ、日清製粉 他

■ その他製造業

キオクシア、大日本印刷、テルモ、凸版印刷、日本製紙、日立製作所、富士通、マイクロンメモリジャパン、オリンパス、キーエンス、ソニー、東芝、パナソニック 他

■ 商社・金融・IT

伊藤忠商事、NTTドコモ、NTTデータ、住友商事、ソフトバンク、日鉄ソリューションズ、日本マイクロソフト、みずほ銀行、三井住友銀行、三菱UFJ銀行、楽天、KDDI、双日 他

■ 教員 国家・地方公務員

東京科学大学、防衛装備庁、東京国税局、九州大学、文部科学省、産業総合研究所、カルフォルニア大学、浙江大学、新エネルギー・産業技術総合開発機構、国立精神・神経医療研究センター 他

■ その他

アクセンチュア、東京ガス、日本総合研究所、小田急電鉄、KADOKAWA、日本IBM、三井不動産、三菱地所、アズワン、日本放送協会 他

生命理工学院 教員一覧 (職階順、五十音順)

〈生命理工学コース〉

	名前	分野	建物略称	掲載頁
教授	五十嵐龍治	細	緑 M6号館	19
	石井 佳誉	分	す J3棟	15
	一瀬 宏	組	す B2棟	24
	伊藤 武彦	細	緑 M6号館	19
	岩崎 博史	細	す S2棟	19
	上野 隆史	分	す B2棟	15
	刑部祐里子	細	す J2棟	19
	加納 心み	細	す S2棟	19
	蒲池 利章	細	緑 M6号館	20
	神谷 真子	分	す R1A棟	15
	川井 清彦	分	す B2棟	15
	北尾 彰朗	分	緑 M6号館	15
	木村 宏	細	す S2棟	20
	金原 数	分	す B2棟	16
	桑 昭苑	組	す B1棟	24
	小島 英理	分	す G1棟	16
	駒田 雅之	細	す S2棟	20
	鈴木 崇之	組	す B2棟	24
	清尾 康志	分	す J2棟	16
	田口 英樹	分	す S2棟	16
	田中 寛	細	す R1棟	20
	田中 幹子	組	す B1棟	24
	中戸川 仁	細	す S2棟	20
	林 宣宏	分	緑 M6号館	16
	廣田 順二	組	す B棟 - C	24
	福居 俊昭	細	す B1棟	21
	本郷 裕一	組	西 W3号館	25
	増田 真二	組	す B棟 - B	25
	村上 聡	分	す J2棟	17

〈人間医療科学技術コース〉

	名前	分野	建物略称	掲載頁
	山口 雄輝	細	す B1棟	21
	湯浅 英哉	分	す J2棟	17
	和地 正明	細	す J2棟	21
准教授	相澤 康則	細	す B1棟	21
	朝倉 則行	分	緑 M6号館	17
	瓜生耕一郎	細	緑 M6号館	21
	大窪 章寛	分	す J3棟	17
	加藤 明	細	す B2棟	22
	川上 厚志	組	す B1棟	25
	下嶋 美恵	組	す B2棟	25
	白木 伸明	細	す B1棟	22
	田川 陽一	組	す B2棟	25
	立花 和則	組	す B2棟	26
	堤 浩	分	す B2棟	17
	藤 泰子	分	す B2棟	18
	中村 信大	細	す B2棟	22
	二階堂雅人	組	西 W3号館	26
	野澤 佳世	分	す B1棟	18
	秦 猛志	分	す B2棟	18
	平沢 敬	細	す J2棟	22
	福嶋 俊明	細	す S2棟	22
	藤田 尚信	細	す S2棟	23
	松田 知子	分	す J3棟	18
	三重 正和	分	す G1棟	18
	八波 利恵	細	す J2棟	23
	山田 拓司	細	緑 M6号館	23
	吉田 啓亮	細	す R1棟	23
講師	梶川 正樹	細	す B2棟	23

	名前	分野	建物略称	掲載頁
教授	梶原 将	細	す J3棟	29
	黒田 公美	組	す B1棟	30
	越川 直彦	組	す B1棟	30
	佐藤 健吾	分	緑 M6号館	27
	實吉 岳郎	細	す B1棟	30
	中村 浩之	分	す R1棟	27
	西山 伸宏	分	す R1棟	27
	藤枝 俊宣	分	す B2棟	27
	安井 隆雄	分	す B2棟	27
	山吉 麻子	分	す B2棟	28
准教授	岡田 智	分	す R1棟	28
	小倉俊一郎	分	す B1棟	28
	折原 芳波	細	す J3棟	29
	門之園哲哉	分	す B2棟	28
	北口 哲也	細	す R1棟	29
	正木 慶昭	分	す B2棟	28
	三浦 裕	分	す R1棟	29
	宮下 英三	組	す G3棟	30
	森 俊明	分	す B2棟	29

〈地球生命コース〉

	名前	分野	建物略称	掲載頁
教授	松浦 友亮	細	石 I7号館	31
准教授	藤島 皓介	分	石 I8号館	31
	MCGLYNN Shawn	分	石 I7号館	31

研究分野

分：分子 細：細胞 組：組織・個体

すずかけ台キャンパス



建物略称

す (すずかけ台キャンパス)

- ① B1棟
- ② B2棟
- ③ B棟-A (B1B2棟-A)
- ④ B棟-B (B1B2棟-B)
- ⑤ B棟-C (B1B2棟-C)
- ⑥ J2棟
- ⑦ J3棟
- ⑧ G1棟
- ⑨ G3棟
- ⑩ R1棟
- ⑪ R1A棟
- ⑫ R2棟
- ⑬ S2棟

西 (大岡山キャンパス・西地区)

- ⑭ W3号館

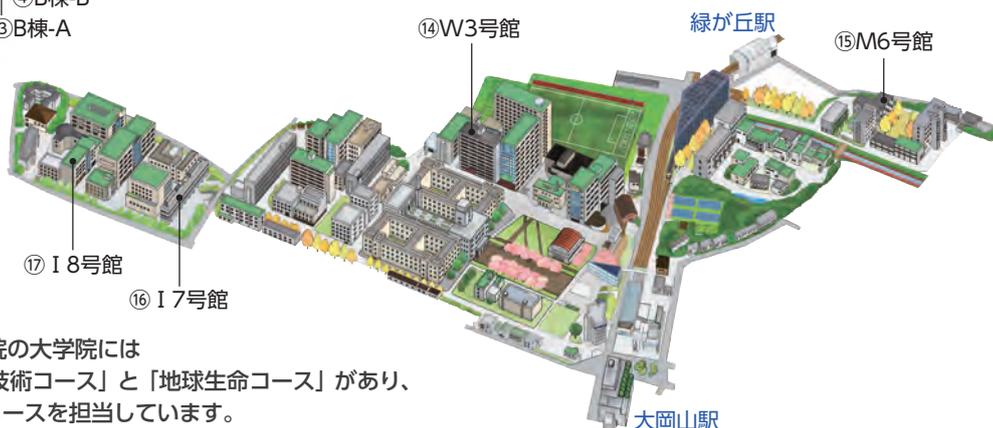
緑 (大岡山キャンパス・緑が丘地区)

- ⑮ M6号館

石 (大岡山キャンパス・石川台地区)

- ⑯ I7号館
- ⑰ I8号館

大岡山キャンパス



生命理工学院の大学院には「生命理工学コース」と「人間医療科学技術コース」と「地球生命コース」があり、各教員はそれぞれのコースを担当しています。



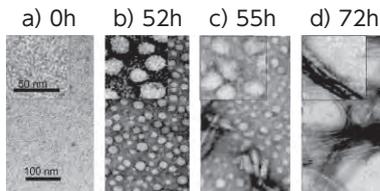
いしい よしたか
石井 佳誉 教授 (助教: 松永 達弥)

固体 NMR を用いた構造生物学とアルツハイマー病の原理の解明

アルツハイマー病等の神経疾患の引き金となるタンパク質 misfolding の問題に固体 NMR 法と物理化学的手法で挑んでいます。マテリアルサイエンスについても高いレベルで研究を行っています。

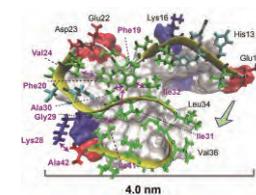
キーワード アミロイド、構造生物学、固体 NMR、炭素ナノ材料

Aβタンパクのアミロイド中間体からフィブリルへの転移を示す電子顕微鏡像



タンパク質

固体 NMR による Aβ42 のフィブリルの構造



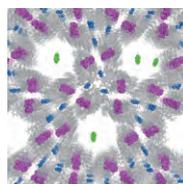
うえの たかふみ
上野 隆史 教授 (助教: 菊池 幸祐)

人工金属酵素の創生と生体超分子マテリアルの開発

我々の体の中で働いている蛋白質からなる超分子構造体を化学的に機能化して、酵素やドラッグデリバリー材料を合成しています。

キーワード 蛋白質工学、生物無機化学、生体機能化学、ケミカルバイオロジー

細孔構造を機能化された蛋白質結晶



生体超分子・高分子

針蛋白質の結晶構造と蛍光顕微鏡像



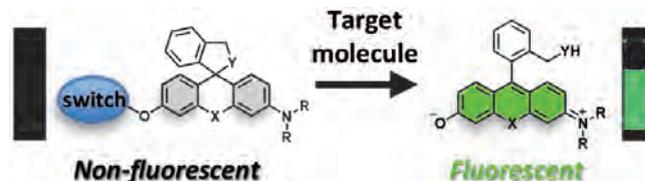
かみや まこ
神谷 真子 教授 (助教: 藤岡 礼任)

オリジナル光機能性分子の開発と生物応用

生命現象を観たり操作するための新たな光機能性分子 (蛍光プローブ、ラマンプローブ、光増感剤など) を創って、生命や病気の謎を解き明かすことを目的とした研究を行っています。

キーワード 有機化学、光化学、蛍光プローブ、バイオイメージング

生体分子と反応して蛍光を発する蛍光プローブ



ケミカルバイオロジー



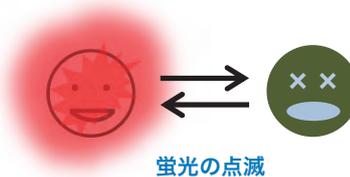
かわい きよひこ
川井 清彦 教授 (助教: 近藤 洋平)

1分子を見つける 1分子から調べる

分子創製に基づき光化学反応を操ります。「静」だけでなく、特に化学反応や、生体分子運動などの速度、「動」に注目した研究を行っています。

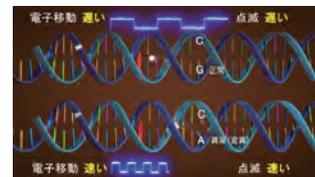
キーワード 光化学、1分子計測、生物有機化学

1分子蛍光blinking



生物有機光化学

病理切片上での点変異1分子診断



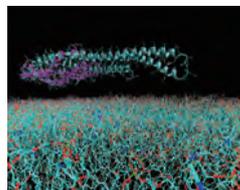
きたお あきお
北尾 彰朗 教授 (助教: TRAN, Phuoc Duy)

コンピュータで原子解像度の生命現象を観る

時々刻々と変化する生命現象を最先端のコンピュータシミュレーションで観察し、どのように生体機能が発揮・制御されるのか、生物を作り上げている分子や原子のレベルから明らかにします。

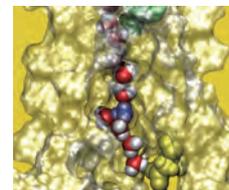
キーワード タンパク質ダイナミクス、計算生物学、生物物理学、理論化学

タンパク質I-BARによって誘導される生体膜変形のシミュレーション



計算生物学

細菌べん毛モーターのプロトン移動メカニズム





きんばら かずし
金原 数 教授 (助教: 木幡 愛)

生体の仕組みを取り入れた機能分子の開発

生体分子のもつ洗練された機能に学び、生体分子を模倣し、その制御を可能とする機能分子を開発しています。

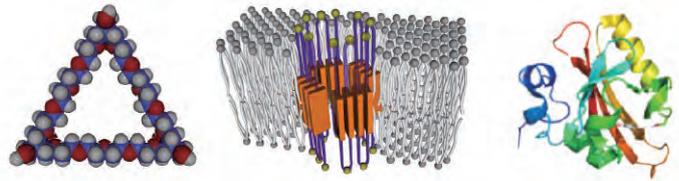
キーワード 有機化学、分子デバイス、分子集合体、バイオメティクス

生体超分子・高分子

三角形PEG分子

イオンチャンネル

光受容性タンパク質



こばたけ えいり
小島 英理 教授

超生物機能タンパク質材料の創製

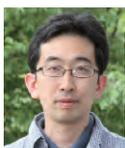
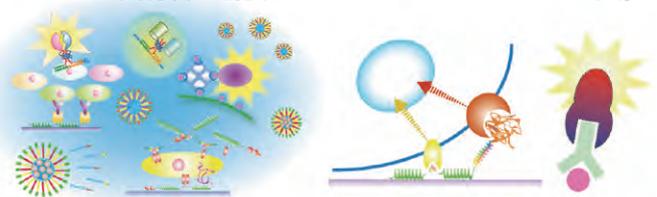
天然を超える高度な機能を備えた「超生物機能タンパク質材料」を設計構築し、それらを用いた「細胞機能制御」および「バイオセンシング」の実現を目指して研究を展開しています。

キーワード タンパク質工学、細胞組織工学、バイオマテリアル、バイオセンシング

生体超分子・高分子

超生物機能タンパク質材料の創製

細胞機能制御・バイオセンシングへの応用



せいお こうじ
清尾 康志 教授 (助教: 村上 英太郎)

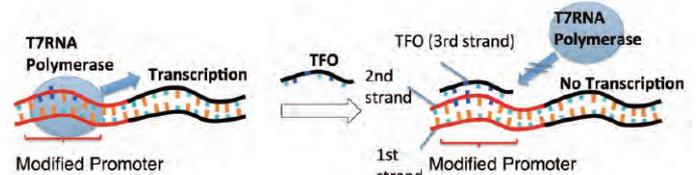
核酸有機化学による遺伝子発現制御法の開発

核酸を分子レベルで自在に制御するための方法論の確立を目指して、有機合成化学、物理化学、生化学、計算化学など様々な手法を用いて研究しています。

キーワード 核酸有機化学、転写制御、核酸医薬

核酸

三重鎖形成を利用した転写制御



たぐち ひでき
田口 英樹 教授 (助教: 丹羽 達也)

細胞内での「タンパク質の一生」：翻訳、シャペロン、プリオン

細胞内でタンパク質がどのようにできてるのか(非典型的な翻訳やタンパク質の構造形成を助けるシャペロン)を中心として、拡大し変容するタンパク質の世界を開拓していきます。

キーワード タンパク質、非典型的な翻訳、シャペロン、プリオン、アミロイド

タンパク質

細胞内の「タンパク質の一生」

シャペロンは凝集を防ぐ
卵白のみ 卵白+シャペロン



はやしのびひろ
林 宣宏 教授

高性能プロテオミクスによる生命科学の新展開

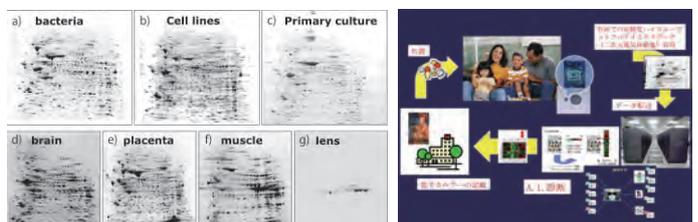
独自の高感度・ハイスループット二次元電気泳動法とAIを組み合わせた高性能AIプロテオミクスによる基礎から臨床、健康科学に至る様々な研究を進めています。

キーワード 健康科学、疾患プロテオミクス、人工知能

タンパク質

様々な臓器の二次元電気泳動像

未来型健康管理社会のイメージ





むらかみ さとし
村上 聡 教授 (助教: 岡田 有意)

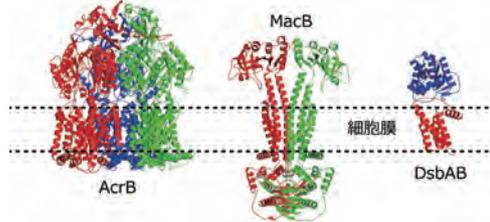
膜タンパク質複合体の構造と機能

薬剤排出に関わる膜輸送体など、細胞膜上で重要な働きをもつ膜タンパク質複合体などの原子レベルでの立体構造をX線結晶構造解析などの手法により観察し、作動機構を構造に基づき本質的に明らかにします。

キーワード 膜タンパク質、構造生物学、蛋白質結晶学、膜輸送

タンパク質

これまで結晶構造を明らかにした膜タンパク質の例



ゆあさ ひでや
湯浅 英哉 教授 (助教: 金森 功史)

光増感剤とガン光線力学治療

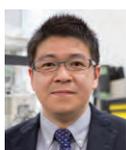
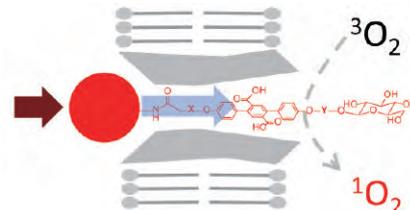
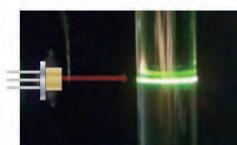
独自の新しい設計原理に基づく増感剤およびエネルギー上方変換素子の開発とそれらを用いた光線力学治療法の開発を行っています。

キーワード 光線力学治療、光増感剤、ランタニドナノ粒子

生物活性・医薬分子

近赤外線エネルギーを上方変換

光増感



あさくら のりゆき
朝倉 則行 准教授

タンパク質の電子移動反応の解明と光起電子移動による水素生産

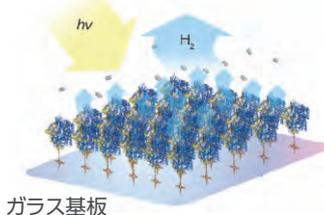
タンパク質の電子移動反応のメカニズムを解明するための測定法の開発を行っています。また、光とタンパク質の電子移動を利用した人工の有用物質生産反応デバイスの構築を行っています。

キーワード 生物電気化学、光物質生産、電子移動、酸化還元タンパク質

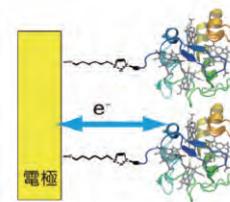
タンパク質

固相上での光水素反応系の構築

タンパク質の電子移動測定



ガラス基板



電極



おおぼし あきひろ
大窪 章寛 准教授

遺伝子治療を指向とした新規核酸医薬の開発

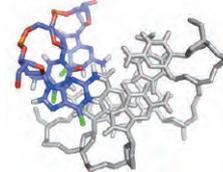
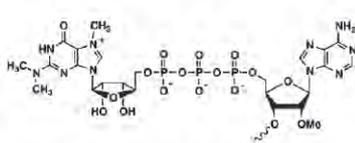
転写、スプライシング、翻訳といった生体内反応を自由自在に操ることのできる生物活性・医薬分子(とくに核酸医薬)の合成研究を行っています。

キーワード 生物有機化学、核酸化学、核酸医薬

生物活性・医薬分子

スプライシングを制御できる分子の設計・合成

DNAと相互作用できる分子の設計・合成



つつみ ひろし
堤 浩 准教授

ケミカルバイオロジーを基盤とした細胞環境の制御・解析

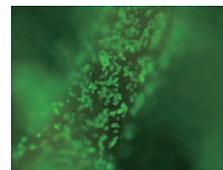
超分子ヒドロゲルや種々の蛍光プローブなどを設計・化学合成し、バイオイメージングなどの手法を用いて細胞環境の解析や制御に取り組んでいます。

キーワード 蛍光プローブ、バイオイメージング、超分子化学、細胞環境化学

生体超分子・高分子

ナノファイバーから成る超分子ヒドロゲル

超分子ヒドロゲルを用いた細胞培養





とう たいこ
藤 泰子 准教授

植物におけるエピゲノム構築機構の解明とその多角的応用

生物はゲノム中の有害な配列を特定し、エピゲノム修飾により発現を抑制しますが、その見分けは何によりなされているのか。植物のエピゲノム修飾構築を軸に、機構解明と発展的応用に挑んでいます。

キーワード 植物、エピゲノミクス、分子遺伝、合成生物学

染色体・遺伝子発現制御

エピゲノム再構築による機構解明

エピゲノム変化は表現型多様性に繋がる



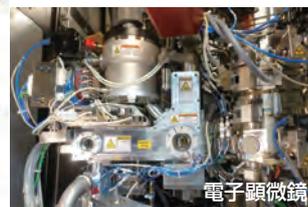
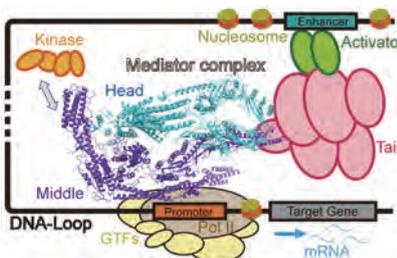
のざわ かよ
野澤 佳世 准教授

遺伝子を制御するゲノム折り畳み構造を顕微鏡で動作原理を探る

遺伝子のオン・オフを規定するゲノム三次構造をクライオ電子顕微鏡等を用いて、原子レベルで観察します。また、生体内のゲノム構造を試験管内で再現することで、その機能を深く理解します。

キーワード 構造生物学、電子顕微鏡、ゲノム構造、転写制御

染色体・遺伝子発現制御



はた たけし
秦 猛志 准教授

環境調和型分子変換法の開発と生物活性分子合成への展開

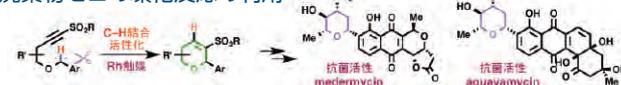
有機分子を安全かつ自在に変換・合成する手法の開発をおこない、それらを利用して天然の有機化合物、人工の医薬などの様々な生物活性化合物の合成に取り組んでいます。

キーワード 有機化学、合成化学、医薬品化学、天然物化学

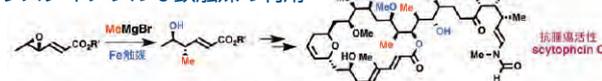
生物活性・医薬分子

低環境負荷な分子変換反応を利用するものづくり

① 廃棄物ゼロの環化反応の利用



② サステイナブルな鉄触媒の利用



まつだ ともこ
松田 知子 准教授

酵素を用いる環境にやさしい有機合成反応の開発

持続的社会的構築に貢献するために、二酸化炭素や酵素などの環境にやさしい資源を用いる効率的な有機合成法を開発しています。

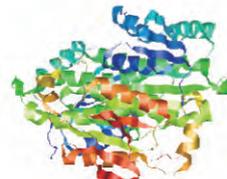
キーワード 酵素、有機合成、二酸化炭素、グリーンケミストリー

生体触媒

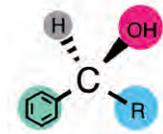
有用酵素を持つ微生物



有機合成の触媒となる酵素



医薬品中間体となる光学活性化合物



みえ まさやす
三重 正和 准教授

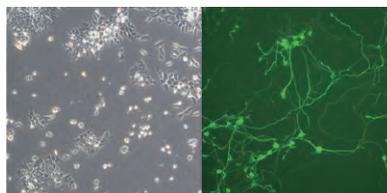
生体分子を材料とした分子ツールの創製

タンパク質やDNAといった生体分子を材料として分子ツールを構築し、それらを利用したバイオイメージング、バイオセンシング、細胞機能制御に取り組んでいます。

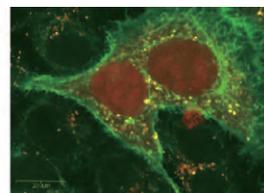
キーワード バイオマテリアル、タンパク質工学、細胞工学

生体超分子・高分子

転写因子タンパク質導入による神経細胞分化誘導



分割酵素タグを利用したバイオイメージング





いがらし りゅうじ
五十嵐 龍治 教授

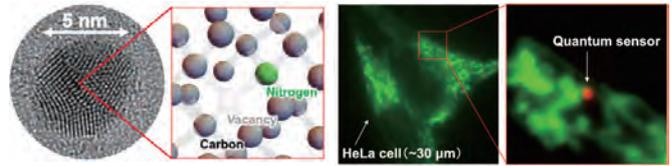
古典的手法の限界を超えることで初めて見える生命の本質を探求

従来の生物学では見過ごされてきた微小な変化、微量の生体分子の計測を量子センサーによって実現することで、生命の本質的な理解や、未病期の超早期診断の創出など革新をもたらします。

キーワード 1細胞/1分子計測、リキッドバイオプシー、アルツハイマー病、ダイヤモンドNVセンター

量子生命科学

5nmの量子センサーを開発（世界最小レベル）、超高感度の生体計測やアルツハイマー病やがん等の早期診断に活用



いとう たけひこ
伊藤 武彦 教授（助教：田中 裕之）

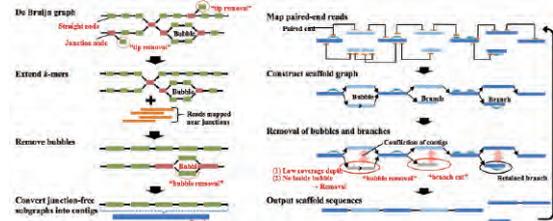
大規模ゲノム配列データと情報解析技術に基づく生命現象の解明

次世代シーケンサーに代表される大規模ゲノム・RNA配列データに対して様々な情報解析技術を用いる事で生命現象の解明に挑んでいます。

キーワード バイオインフォマティクス、ゲノム情報、染色体動態

生命情報学

当研究室で開発したPlatanusアセンブラアルゴリズムの概要



いwasaki ひろし
岩崎 博史 教授（助教：坪内 英生）
（助教：金丸 周司）

染色体ダイナミズムの時空間制御の分子メカニズム

遺伝情報を担う染色体のダイナミックな時空間的制御の分子機構を解明するために、様々な手法を用いて挑んでいます。特に、相同組換えや分裂酵母の接合型変換をモデル系として研究しています。

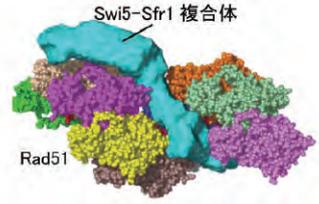
キーワード DNA修復、組換え、ゲノム安定性維持機構、染色体生物学

染色体・遺伝子発現制御

RuvCとHolliday分岐DNA複合体



Rad51フィラメントとSwi5-Sfr1の高次複合体



おさかべ ゆりこ
刑部 祐里子 教授（助教：城所 聡）

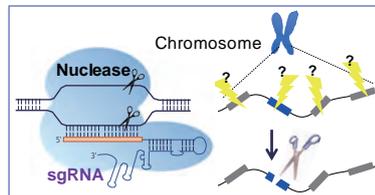
ゲノム編集の分子基盤と植物の環境応答向上を目指した遺伝子工学

遺伝子工学技術としてのゲノム編集基盤を構築し、植物ゲノムにプログラムされた環境ストレス応答の生理・分子機構の解明とその応用による植物の機能向上に取り組んでいます。

キーワード ゲノム編集、遺伝子工学、植物、環境ストレス

植物・合成生物学

ゲノム編集ツールによるゲノム改変・遺伝子変異の誘導



植物や医療への応用



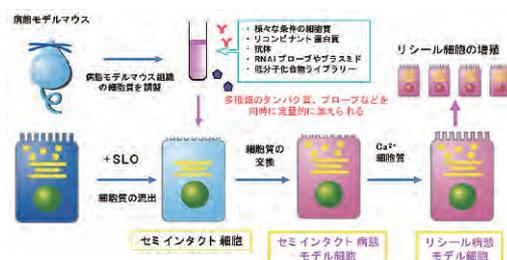
かのう ふみ
加納 ふみ 教授

細胞編集技術と共変動ネットワーク解析を用いた細胞デザイン

細胞内分子導入法・リシール細胞技術と細胞染色画像から構築する新規タンパク質共変動ネットワーク解析・PLOM-CON解析を駆使し、疾患特異的ヒトiPS細胞や培養細胞を用いて細胞機能の分子機能解析・制御を目指しています。

キーワード リシール細胞技術、細胞編集、共変動ネットワーク解析、ヒトiPS細胞

細胞機能・制御



リシール細胞技術の概略



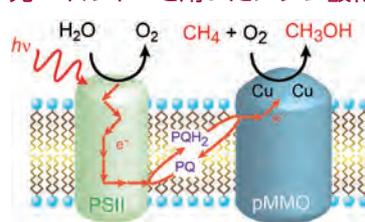
かまち としあき
蒲池 利章 教授 (助教: 伊藤 栄紘)

金属イオンの生体内での機能解明と応用

微生物を用いた有用物質生産、金属ポルフィリンを用いた細胞内酸素濃度イメージング、エネルギー変換などについて研究を行っています。

キーワード 金属タンパク質、細胞内酸素濃度イメージング、エネルギー変換

光エネルギーを用いたメタン酸化



微生物

1細胞内の酸素濃度イメージング



きむら ひろし
木村 宏 教授 (助教: 井手 聖)

生細胞・生体内のエピジェネティクス動態制御

細胞核やクロマチンレベルでの遺伝子発現制御機構を解明するために、生きた細胞や個体でヒストン翻訳後修飾のダイナミクスのイメージングなどを行っています。

キーワード エピジェネティクス、細胞核、転写制御、生細胞イメージング

染色体・遺伝子発現制御



多様なヒストン修飾の細胞核内局在



こまだ まさゆき
駒田 雅之 教授

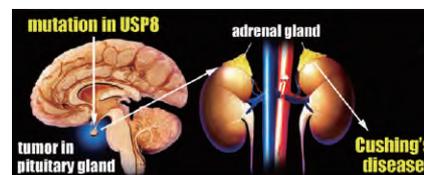
増殖因子受容体の分解制御と細胞増殖・がん化の分子機構

増殖因子受容体の分解による細胞増殖の調節機構と、その破綻がきたす腫瘍・がんの発症機構について、特に難病“クッシング病”をひき起こす脳下垂体腫瘍を中心に、解明に挑んでいます。

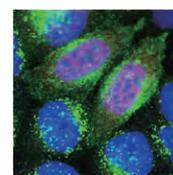
キーワード がん、腫瘍、増殖因子受容体、ユビキチン

細胞機能・制御

USP8 遺伝子の変異による難病“クッシング病”の発症機構



変異 USP8 による増殖因子受容体の分解阻害



たなか かん (助教: 前田 海成)
田中 寛 教授 (助教: 大坂 夏木)

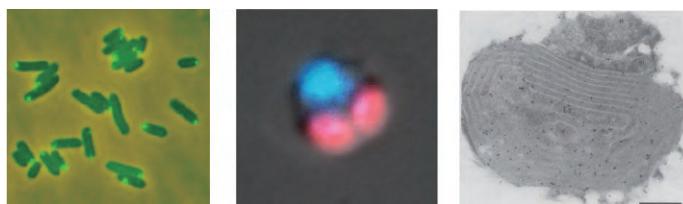
細胞のシステムを理解しそのデザインまでを目指す

光合成、代謝系、リボゾーム、バクテリア、葉緑体などに注目し、生命活動の基本単位である『細胞』が生きる枠組みについて、その進化にも注目しながら読みといていきます。

キーワード 光合成、代謝制御、遺伝子発現、共生/細胞進化

微生物

単細胞のモデル微生物を用いた細胞システム研究



なかとがわ ひとし
中戸川 仁 教授 (助教: 持田 啓佑)

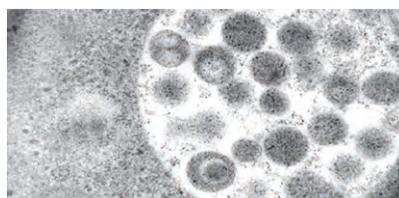
オートファジーの分子メカニズムと生理機能の解明

細胞内の大規模分解・リサイクルシステムであるオートファジー (自食作用) の分子機構と生理的役割の解明に様々な手法を用いて挑んでいます。

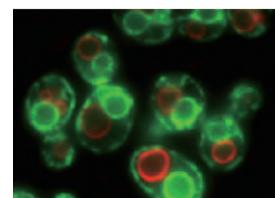
キーワード 酵母、細胞小器官、膜動態、飢餓/ストレス応答

細胞機能・制御

オートファジーを誘導した酵母の電子顕微鏡像



酵母の蛍光顕微鏡像 (緑: 小胞体、赤: 液胞)



ふくい としあき
福居 俊昭 教授 (助教：折田 和泉)

微生物機能の解析とその物質生産への利用

超好熱菌、バイオプラスチック生産菌、メタノール資化性菌を対象に、微生物のもつ物質生産能を我々の生活や環境の改善に活かすことを目指した研究を進めています。

キーワード 微生物、代謝工学、超好熱菌、バイオプラスチック生産菌

微生物

水素発生能をもつ超好熱菌
Thermococcus kodakarensis
 生育温度: 60~100°C

バイオプラスチック生産菌の代謝工学

バイオマス
 アセチル-CoA
 (R)-3HA-CoA
 PHA
 遺伝子操作
 Bioreactor
 バイオプラスチック (バイオマス由来、生分解性)

やまぐち ゆうき (助教：坂本 聡)
山口 雄輝 教授 (助教：山本 淳一)

生命の分子機械の「しくみ」を解明し、応用展開を目指す

当研究室では「ゲノム情報発現の制御機構の解明」「医薬品などの低分子化合物を用いたケミカルバイオロジー」の2つを研究テーマとして掲げ、基礎から応用まで幅広く展開しています。

キーワード 遺伝子発現、ゲノム、創薬、ケミカルバイオロジー

染色体・遺伝子発現制御

様々な研究内容を表すコラージュ
 (左から順に、転写過程のモデル、ES細胞、医薬品、ゲノムワイド解析)

わち まさあき
和地 正明 教授 (助教：岩井 伯隆)

細菌の細胞増殖と代謝の制御機構の解明

細菌がどのように代謝を行い、増殖するのか、その仕組みの解明を目指しています。あわせて新規抗生物質のスクリーニングも行っています。

キーワード 大腸菌、コリネ型細菌、細胞分裂、代謝、抗生物質

微生物

スナッピング分裂を行うコリネ型細菌

新規抗生物質アラレマイシンとその生産菌

Alaremycin *Streptomyces* sp. A012304

あいざわ やすのり
相澤 康則 准教授 (助教：金子 真也)

ヒトゲノム・遺伝子の成立原理の解明

「遺伝子の常識」に反する、新しい遺伝子群を発見し、その機能解析を進めています。またゲノム合成技術を開発すると共に、それを使って「ガラクタ配列」と呼ばれていたヒトゲノム領域の機能性を再検証しています。

キーワード 遺伝子、ヒトゲノム、マイクロプロテイン、タンパク質検出技術開発

ゲノミクス

さまざまな自然科学分野の知識と視点と方法を駆使して、完全新規なヒト遺伝子群を解き明かし、社会還元します。

うりう こういちろう
瓜生 耕一郎 准教授

生命現象の数理解析

数理モデルとシミュレーションを用いて、生命現象の解明に挑んでいます。発生時計や概日時計の研究を行っています。

キーワード モデリング、体節形成、体内時計、シミュレーション

数理生物学

発生時計の数理解析
 Quantification of tissue parameters
 Model for the segmentation clock
 cellular motions
 phase of the clocks

概日時計の数理解析
 Interlocked feedback loops of Per1 and Per2
 Model for Per1 and Per2
 Phase response of circadian clock
 Per1 light induction
 Per2 delay



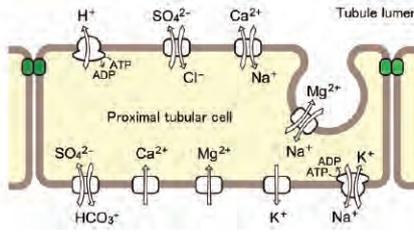
かとう あきら
加藤 明 准教授 (助教: 永嶋 鮎美)

環境適応を担う腎臓・腸・体表の上皮輸送機構

腎臓、腸、体表に発現する輸送体を淡水魚、海水魚、陸生動物で比較し、環境適応を担うメカニズムを分子、細胞、ゲノムレベルで理解すると共に、新たな創薬ターゲットを探索しています。

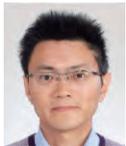
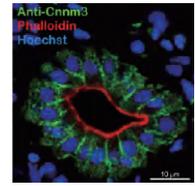
キーワード 電気生理学、分子生理学、細胞生物学、比較ゲノム

海水魚腎臓による2価イオン排出機構



細胞機能・制御

海水魚腎臓における Mg²⁺ 輸送体の局在



しらかし のぶあき
白木 伸明 准教授

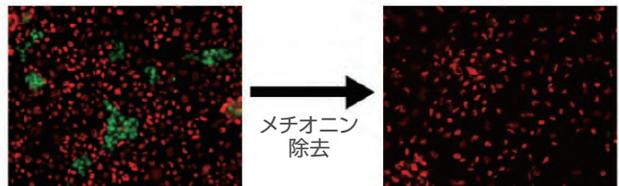
幹細胞分化におけるアミノ酸代謝の役割の解明

幹細胞の未分化維持や細胞分化におけるアミノ酸代謝の役割について解明し、ES/iPS 細胞の内胚葉分化へ応用することを目指しています。

キーワード ES細胞、iPS細胞、アミノ酸代謝、細胞分化

細胞機能・制御

メチオニンを除去すると未分化細胞選択的に細胞死が起こる (緑: 未分化細胞、赤: 分化した内胚葉細胞)



なかむら のぶひろ
中村 信大 准教授

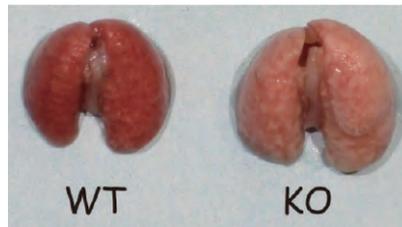
細胞や組織の形成・機能維持にはたらく細胞内情報伝達機構の解明

受容体などの細胞内シグナル伝達分子の生理機能や調節機構の解析を通して、肺や腎臓などの組織、細胞、細胞内小器官の形態形成や機能維持、病態発症の分子機序の解明を目指しています。

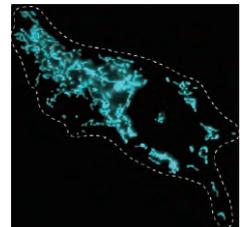
キーワード 受容体、シグナル伝達、ノックアウトマウス、ユビキチン

細胞機能・制御

ノックアウトマウスでの肺の肥大化



ミトコンドリアの形態



ひらさわ たかし
平沢 敬 准教授

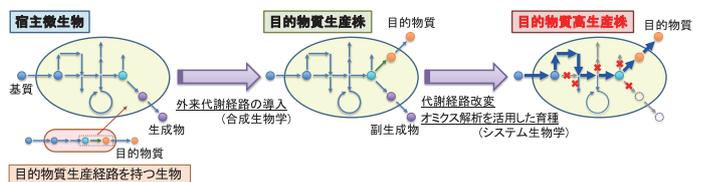
微生物細胞を用いたものづくりのための代謝工学

微生物細胞を用いた有用物質生産を行うための基盤となる技術を構築するとともに、実際の有用物質生産に取り組んでいます。

キーワード 応用微生物学、代謝工学、微生物細胞工場、ものづくり

微生物

有用物質生産を目指した代謝工学・微生物育種



ふくしま としあき
福嶋 俊明 准教授

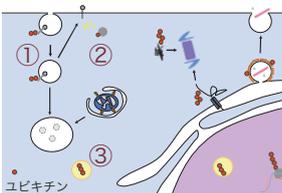
ユビキチンが支えるヒト細胞の正常性と疾患におけるその異常

大規模なタンパク質修飾系“ユビキチンシステム”に着目し、これを介したヒト細胞の多彩な制御と、疾患(腫瘍・神経変性など)や老化における制御異常の解明に挑んでいます。

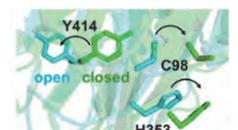
キーワード ユビキチンシステム、細胞生物学と疾患生物学、創薬への橋渡し研究

細胞機能・制御

難治性疾患の治療薬開発に向けた橋渡し研究の例
ユビキチンが関わる多彩な細胞制御



- ← 今の研究対象
- ① 細胞内膜輸送
- ② シグナル伝達
- ③ 無膜オルガネラの形成や解消



脱ユビキチン化酵素の疾患変異による機能と構造の変化の解明 → 創薬標的として提案へ



ふじた なおのぶ
藤田 尚信 准教授

筋細胞のオルガネラが形作られるメカニズムの解明

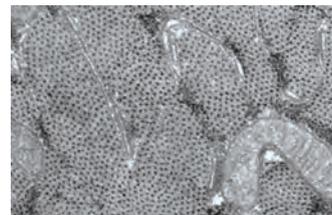
筋細胞は多核の巨大な細胞であり、高度に組織化されたユニークなオルガネラを持ちます。私たちは、それらのオルガネラが形成・再構成されるメカニズムの解明に挑んでいます。

キーワード 筋細胞、細胞小器官、T管、ショウジョウバエ

細胞機能・制御

ショウジョウバエ幼虫の筋細胞

筋細胞横断面の電子顕微鏡像



やつなみ りえ
八波 利恵 准教授

無限の可能性をもつ極限環境微生物～愛すべきへそ曲がり～

極限環境微生物由来する酵素（極限酵素）のタンパク質工学による機能向上、ならびに極限環境微生物による有用物質生産を目指した研究を行っています。

キーワード タンパク質工学、代謝工学、極限環境微生物、極限酵素

微生物



三角形平板状の形態を有する高度好塩性古細菌のAFMイメージ



やまだ たくじ
山田 拓司 准教授

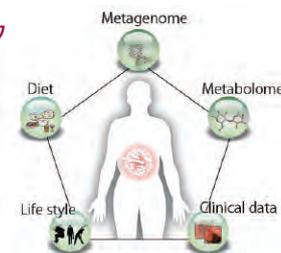
ヒト常在細菌ビッグデータ解析

ヒトとその腸内や皮膚に共生する常在菌がどのように関わっているのかについて研究を行っています。ゲノム、メタゲノムなどの大規模データをバイオインフォマティクスの研究室です。

キーワード 腸内細菌、代謝パスウェイ、メタゲノム、バイオインフォマティクス

情報・合成生物学

腸内環境のデータネットワーク



よしだ けいすけ
吉田 啓亮 准教授

植物オルガネラの機能制御メカニズムを多角的に解き明かす

固着生活を営む植物はどのように自身のオルガネラ機能を制御して過酷な変動環境を生きているのか。分子生物学・生化学から生理生態学までを貫徹する網羅的アプローチで挑んでいます。

キーワード 光合成、環境応答、レドックス制御、オルガネラ間クロストーク

植物

タンパク質レベルの分子メカニズムの解析

変異株植物を用いた生理機能の解析



かじかわ まさき
梶川 正樹 講師

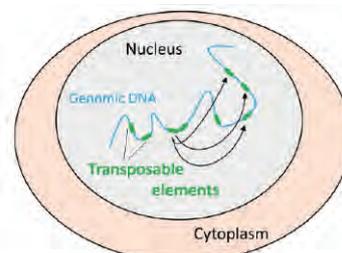
転移因子は生きている？

生物のゲノムには、何百万コピーもの転移因子が存在します。転移因子がどのような機構で増幅するのか、ゲノムの機能や進化にどのような意味を持つのか、その解明が我々の研究目的です。

キーワード 転移因子、レトロトランスポゾン、ゲノム進化、エピジェネティクス

染色体・遺伝子発現制御

転移因子の細胞内での増幅



いちのせ ひろし

一瀬 宏 教授

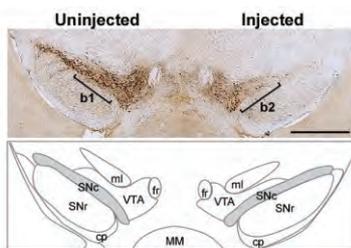


**モノアミン・ビオプテリンによる
高次脳機能の調節機構の解明**

モノアミン神経伝達物質による脳機能の調節機構や、ビオプテリンの生理作用の研究を通じて、疾患の発症機構の解明、診断や治療・健康増進につながる研究を目指しています。

キーワード ドーパミン、ビオプテリン、パーキンソン病、バイオマーカー

神経化学



AAV-Creを用いたチロシン水酸化酵素遺伝子の誘導的破壊

くめ しょうえん

桑 昭苑 教授



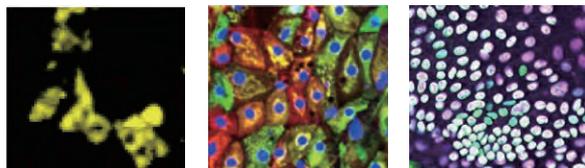
**消化器官の発生分化・再生の
分子メカニズムを解明する**

多能性幹細胞から誘導した分化細胞をモデル細胞に用いて、組織の発生分化再生、恒常性維持に関わる分子の探索、その破綻をきたす病態からの回復を促す方法を探索します。

キーワード 多能性幹細胞、発生分化、創薬、再生医学

発生・再生

ES細胞・iPS細胞から誘導した膵臓、肝臓や腸の細胞



すずき たかし

鈴木 崇之 教授 (助教：小坂 二郎)



神経回路形成・変化の分子機構

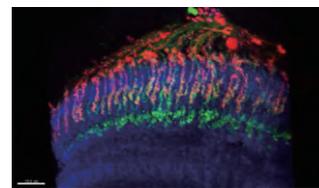
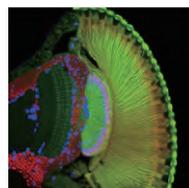
神経回路の発達と、経験による変化の分子メカニズムを、遺伝子レベルから理解しようとしています。我々の行動の源にあるものとは？その正体に迫ります。

キーワード 脳、神経、経験依存的変化、細胞間相互作用

神経

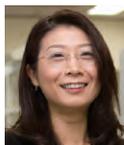
ショウジョウバエの複眼を切った蛍光画像

視神経のシナプス(赤)を可視化した3D画像



たなか みきこ

田中 幹子 教授 (助教：河西 通)



**脊椎動物の形態を進化させる
発生プログラムの変遷**

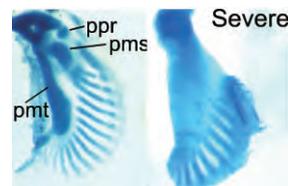
脊椎動物の進化の過程で形態を変化させた発生プログラムを理解することを目的に、特に対蹻と四肢を題材として、研究を行っています。

キーワード 進化発生学、形態学、器官形成

発生・進化

タンパクの添加で遺伝子発現が変化したニトリの肢芽(右)

人為的に進化を再現させたサメの蹻(右)



ひろた じゅんじ

廣田 順二 教授 (助教：岩田 哲郎)



**嗅神経細胞の多様性創出の
分子メカニズムの解明**

香りの感覚(嗅覚)を中心に、化学感覚の末梢から高次脳までを、マウス遺伝学的手法を用いて分子・細胞・個体レベルで解明しようとしています。

キーワード 神経発生・分化、嗅覚・化学感覚、ゲノム工学

神経

嗅神経細胞をGFPで可視化したマウス嗅上皮の断面像

人工ゲノムやゲノム編集技術を用いた遺伝子改変





ほんごう ゆういち
本郷 裕一 教授 (助教: 村上 匠)

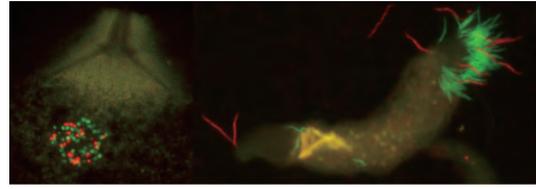
共生系の分子生態学とゲノム進化

シロアリなどを題材として、動物と微生物、または微生物同士の共生機構の解明を目指しています。野外調査から1細胞ゲノミクスまで、分野横断的に研究を行っています。

キーワード 共生、昆虫、腸内微生物、1細胞ゲノム解析、メタゲノム解析

進化・生態・微生物

シロアリ腸内原生物と核内(左)、細胞表面(右)の共生細菌(それぞれ赤と緑の2種ずつ)



ますだ しんじ
増田 真二 教授 (助教: 野々山 翔太)

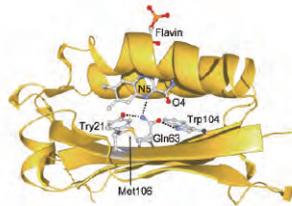
光合成・葉緑体代謝の制御機構の解明

植物や藻類は外界の環境変動に応じて巧妙に光合成を調節しています。私たちはその制御因子を明らかにし、植物バイオマス増産へ向けた応用研究へ展開します。

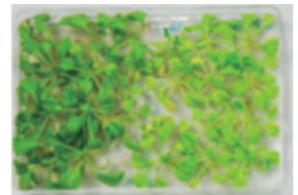
キーワード 光生物学、光受容体、葉緑体 / 光合成、光ストレス応答

環境応答・シグナル伝達

青色光を認識する光受容体タンパク質の構造



光合成調節不全植物(右)



かわかみ あつし
川上 厚志 准教授

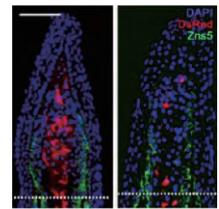
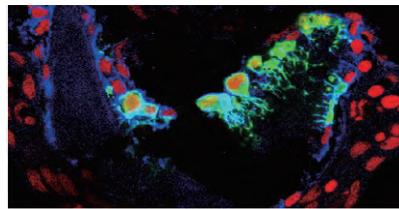
組織再生の分子・細胞メカニズム

多細胞生物は生涯にわたって、細胞や組織を修復、再生しながら生存しています。魚類は特に再生能力が高く、ひれ、心臓、脳神経などの組織でも再生できます。私たちは、ゼブラフィッシュモデルを使って、組織の維持、再生の基本原理解明に取り組んでいます。

キーワード 再生生物学、幹細胞、ゼブラフィッシュ、組織恒常性

発生・再生

蛍光トランスジェニック、細胞系譜解析、細胞や分子シグナルの操作などによる再生メカニズムの解析



しもじま みえ
下嶋 美恵 准教授

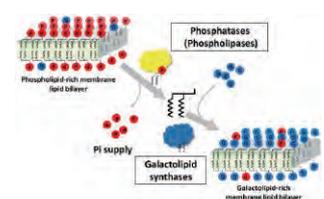
植物における環境ストレスに応答した脂質転換機構の解明

植物は環境ストレスにさらされると、膜脂質、貯蔵脂質(油脂)、表層脂質の量や組成を変えてストレスに適応します。私たちはそのような“脂質転換機構”の全容解明および環境ストレス耐性植物や油脂高蓄積植物の作出を目指しています。

キーワード 植物、脂質、ストレス応答、油脂生産

植物

リン欠乏生育時の膜脂質転換 (リン脂質から糖脂質へ)



リン欠乏時の膜脂質転換を欠損した変異体の乾燥ストレス耐性 (左: 野生株、右: 変異体)



たがわ よういち
田川 陽一 准教授

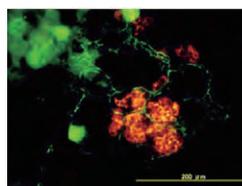
in vitro 生命モデルによる前臨床試験システムの開発

一つの細胞から増殖・分化した多種類の細胞による組織をマイクロ流体デバイスで培養した in vitro 生命体モデルを開発し、動物実験代替法や前臨床試験システムを開発する。

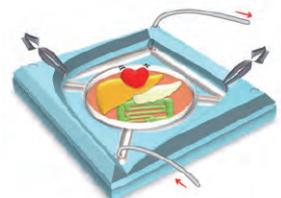
キーワード in vitro 生命モデル、合成生物学、発生工学、再生医学

発生・再生

マウスES細胞から構築した内皮細胞と肝細胞の肝組織



In vitro 生命体モデル





たちばな かずのり
立花 和則 准教授

**生殖幹細胞から卵母細胞形成の
 時間生物学的制御機構**

覚醒と睡眠、体温など、多くの生物の活動は生物時計で制御されています。私たちはクラゲの卵形成から産卵までの過程の生物時計による制御を研究室とフィールドで明らかにしようとしています。

キーワード クラゲ、生物時計、生殖幹細胞、産卵、光周性

時間生物学

エダアシクラゲ



エダアシクラゲのポリプ



にかいどう まさと
二階堂 雅人 准教授 (助教: 長澤 竜樹)

**生物の適応進化や平行進化に関わる
 分子メカニズムの理解**

様々な生き物のゲノムを比較解析することで生物多様性創出のメカニズムの理解を目指しています。おもにシクリッドや古代魚、ハリネズミなどを対象に研究しています。

キーワード 進化多様性、フェロモン、シクリッド、哺乳類

進化・生態

体毛から針への平行進化
 (ハリネズミとテンレック)



唇の肥大化
 (シクリッド)





さとう けんご
佐藤 健吾 教授

情報科学を駆使して生命の謎を解き明かす

人工知能・機械学習技術を駆使したデータ駆動型のバイオインフォマティクスによって生命科学研究を加速することを目指しています。

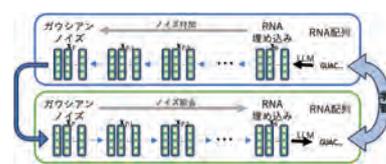
キーワード 生命データサイエンス、バイオインフォマティクス、創薬インフォマティクス、医療AI

生命情報学

深層学習による
RNA二次構造予測



深層生成モデルによる
RNA配列デザイン



なかむら ひろゆき (助教：三浦 一輝)
中村 浩之 教授 (助教：垣内 亮)

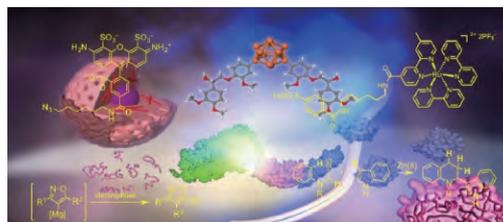
有機合成の力で生命機能の解明と制御、創薬への展開

有機合成化学を基盤に、新しいがん治療を目指した創薬研究、ケミカルバイオロジー研究分野での技術革新を目指して研究を展開しています。

キーワード 有機化学、創薬化学、ケミカルバイオロジー、中性子捕捉療法

生物活性・医薬分子

有機小分子による標的タンパク質機能の制御



ふじえ としのり
藤枝 俊宣 教授

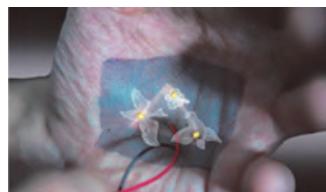
次元制御に基づくナノバイオデバイスの創製と医療技術への展開

ナノバイオ材料とエレクトロニクスの融合により生まれるバイオマテリアル・デバイス開発を通じて、生体に対して低侵襲な次世代の医療技術創製を目指しています。

キーワード 生体材料、高分子、組織工学、バイオエレクトロニクス

生体超分子・高分子

導電性ナノ薄膜を利用した手のひらの上でのLED点灯実験



光がん治療に向けた埋め込み型発光デバイスの開発



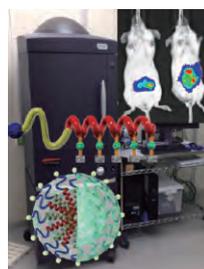
にしやま のぶひろ (助教：本田 雄士)
西山 伸宏 教授 (助教：六車 共平)

高分子ナノテクノロジーを基盤とした革新的ナノ医薬品の開発

高分子ナノテクノロジーを基盤として、がんをはじめとする難病の治療や疾患の前触れを検出するための高感度イメージング技術等の未来医療の実現に向けた革新的ナノ医薬品の開発を目指しています。

キーワード ナノ医薬品、DDS、ナノテクノロジー、機能性高分子

生体超分子・高分子



高分子合成からナノ医薬品の機能評価までを行うことができる研究環境を整備

MRIによる大腸がん微小肝転移の高感度検出



やすい たかお
安井 隆雄 教授 (助教：阿尻 大雅)

生命分子計測をナノインテリジェンスプラットフォームで革新する

様々な分野融合(工学・化学・情報学など)により、ナノインテリジェンスプラットフォームを創出し、新たな生体計測技術開発に取り組んでいます。生命科学・医療の飛躍的発展や産業変革を目指しています。

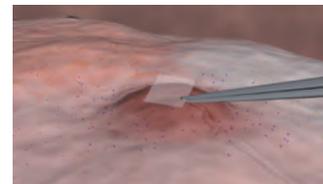
キーワード 生命分子計測、ナノインテリジェンスプラットフォーム、リキッドバイオプシー、量子生命科学

生体解析

細胞外小胞やDNAを計測するプラットフォーム



体内から生命分子を取得するプラットフォーム





やまよし あさこ

山吉 麻子 教授 (助教: 三瓶 悠)

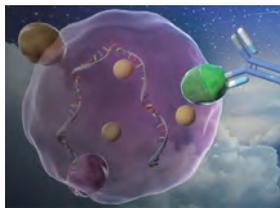
生命現象を操る核酸医薬の創製と社会実装

「副作用の無い薬をつくりたい!」と思ったことが研究者を目指したキッカケでした。新しい核酸医薬の創製と、その細胞内送達技術 (DDS) の開発を主軸とした研究に、日々挑戦しております。

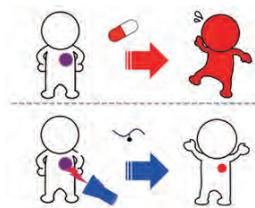
キーワード 核酸医薬、DDS、細胞外小胞(エクソソーム)、光制御

生物活性・医薬分子

細胞外小胞を用いたDDS



光を用いた遺伝子制御技術



おかだ さとし

岡田 智 准教授

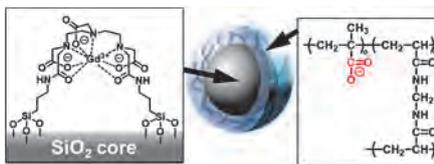
生体観察・操作を志向した機能性材料の創製

生体反応を動物個体レベルで観察・操作するための有機-無機ハイブリッド材料開発に取り組んでいます。

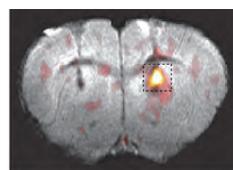
キーワード 材料化学、ケミカルバイオロジー、分子イメージング

生体超分子・高分子

pH応答性コア-シェル磁性ナノ粒子



MRIプローブによる脳内Ca²⁺イメージング



おぐら しゅんいちろう

小倉 俊一郎 准教授

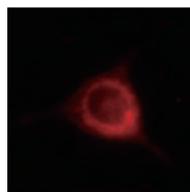
医療応用を目指した生化学の展開

ヒトの代謝産物の解析を中心とした生化学を展開し、がんをはじめとする医療応用を目指します。ヒト細胞の性質を詳しく調べることによって、がんの可視化や早期発見を実現するマーカー探索などを行っております。

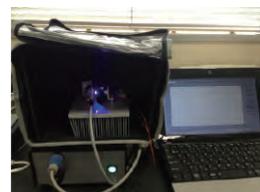
キーワード がん診断、がん治療、バイオマーカー、細胞生理工学

生物活性・医薬分子

代謝物を蓄積させて可視化した胃がん細胞



簡易バイオマーカー測定装置



かどのその てつや

門之園 哲哉 准教授

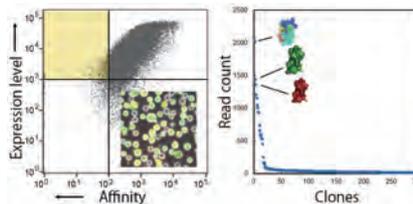
スマートデザインによる次世代バイオ医薬の創出

計算科学的手法による分子予測と合成生物学的な分子探索法を融合した「生体機能模倣分子のスマートデザイン技術」の開発に取り組んでいます。また、小型タンパク質やペプチドのスマートデザインにより、次世代バイオ医薬の創出を目指しています。

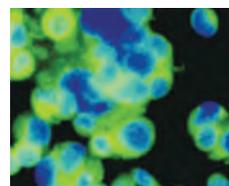
キーワード スマートデザイン、バイオ医薬、中分子創薬

タンパク質

抗原結合分子をディスプレイした細胞の回収と次世代シーケンス解析



バイオ医薬候補による乳がん細胞の可視化



まさき よしあき

正木 慶昭 准教授

核酸医薬品の課題を解決する新たな化学的アプローチの開発

核酸医薬品はいま治せない難病であっても治療できそうだが、課題も多く存在しています。なぜできないのかに向き合い、有機化学を中心に多分野を融合して課題解決に取り組んでいます。

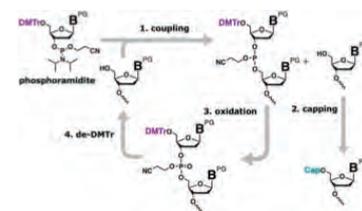
キーワード 核酸医薬、有機化学、生物有機化学、情報化学

核酸

核酸-タンパク質複合体の構造から分子を設計



高い正確性をもつ核酸化学合成法





みうら ゆたか
三浦 裕 准教授

機能性高分子の精密合成による新規バイオマテリアルの創成

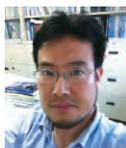
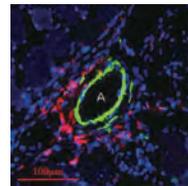
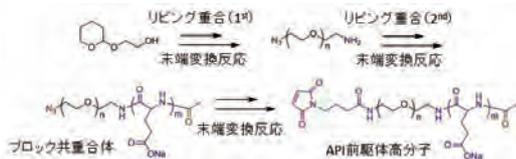
高分子の精密合成法を駆使して、がんや脈管系疾患などの難病を治療するためのバイオマテリアル開発を行っています。

キーワード 高分子化学、ナノバイオテクノロジー、高分子創薬、コントロールドリリース

生体超分子・高分子

下肢虚血への高分子薬剤の集積 (緑: α -SMA、赤: 高分子薬剤、青: 核)

リビング重合と末端変換反応の例



もり としあき
森 俊明 准教授

細胞膜上の複合糖鎖の作用解明と工学的利用

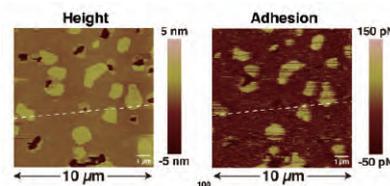
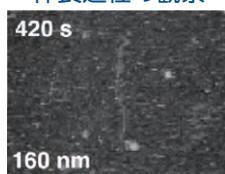
糖タンパク質、糖脂質やプロテオグリカンなどの相互作用を1分子レベルで観察することにより作用を解明し、バイオマテリアルの創製等工学的利用を目指す。

キーワード 複合糖鎖、レクチン、糖転移酵素、1分子計測

生体超分子・高分子

高速AFMによる糖鎖合成酵素上でのヒアルロン酸伸長過程の観察

ペロ毒素修飾探針による脂質膜中の糖鎖ラフトの力学計測



かじわら すすむ
梶原 将 教授 (助教: CHEN, Xinyue)

感染症の分子メカニズムとその対策技術の開発、資源循環システム開発

微生物が関わる医学領域や環境科学領域の応用生化学・分子生物学の研究 (感染や薬剤耐性のメカニズム、創薬スクリーニング系開発、宿主応答、資源再利用システム構築など) を行っています。

キーワード 病原性、免疫、創薬、資源再利用

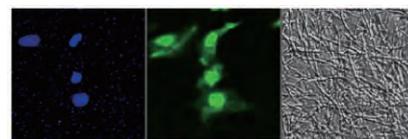
応用微生物・感染症



病原真菌によるヒト細胞のアポトーシス誘導

(左: 核、中央: TG2タンパク質発現、右: 細胞と真菌)

薬剤排出ポンプの細胞膜局在



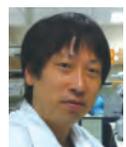
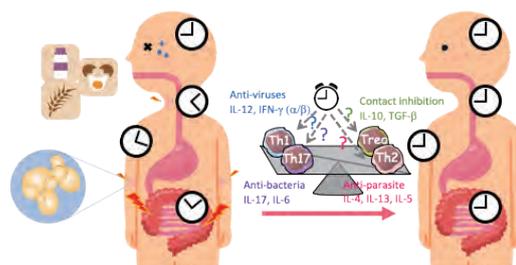
おりはら かなみ
折原 芳波 准教授

免疫疾患の分子メカニズム解明と末梢時計を利用した予防法の探索

体内時計の観点から感染症やアレルギー疾患などの発症分子機構についての基礎研究を行うとともに、新規薬剤のターゲット探索や予防法の開発などの応用研究を行っています。

キーワード 免疫学、分子生物学、体内時計、薬剤耐性

生物活性・医薬分子



きたぐち てつや (助教: 朱 博)
北口 哲也 准教授 (助教: 安田 貴信)

細胞の動きや情報を見るバイオセンサーの開発

生物が生きた状態のまま、核酸、タンパク質、脂質、代謝産物、イオンなどの細胞内分子の動き、活動/休止、増減を可視化するツールの開発に取り組んでいます。

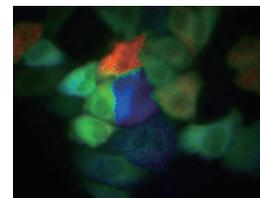
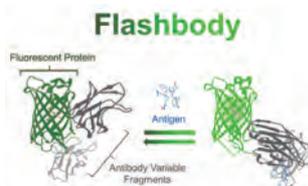
キーワード 蛍光タンパク質、バイオイメージング、細胞情報

細胞機能・制御

抗原に結合すると蛍光輝度が上昇する蛍光タンパク質センサー

蛍光顕微鏡像

(青: 低濃度、赤: 高濃度)





くろだ くみ
黒田 公美 教授 (助教: プロコフェバ・クセニア)

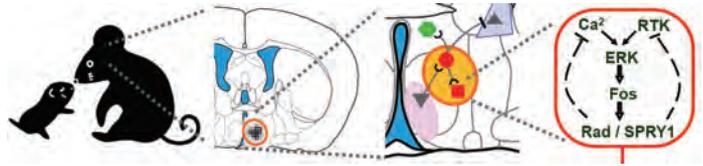
親和的社会性の行動神経生物学

子どもは社会的関係の中で育ち、将来の社会性を身につけます。親子関係をはじめとする哺乳類の社会性の脳内機構を理解することで、子育てを科学的に支援し安全な社会を目指します。

キーワード 養育 (子育て)、子の親への愛着、輸送反応、マウス

神経

子育て行動の脳内メカニズム：行動から分子まで



こしかわ なおひこ
越川 直彦 教授 (助教: 舟橋 伸昭)

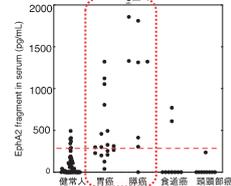
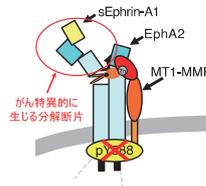
細胞外プロテオリシスによるがん悪性化進展制御の解明とその臨床応用

がん悪性化進展の動力源として働く膜型メタロプロテアーゼに着目した基礎研究、および、それら知見を基にしたがん診断・治療法の開発に取り組んでいます。

キーワード がん、細胞マトリックス、マトリックスメタロプロテアーゼ、診断/治療

腫瘍生物学

がん細胞膜上のプロセッシングで生じた断片 (左図) が難治がん診断の新たなバイオマーカー (右図) になる可能性



さねよし たけお
實吉 岳郎 教授 (助教: 山崎 世和)

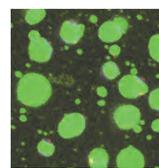
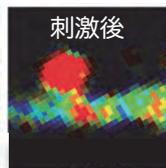
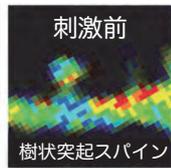
記憶を維持する分子メカニズムの解明

一生忘れない記憶はどのように維持されているのでしょうか。わたしたちは記憶情報維持の分子メカニズムとその破綻が引き起こす疾患について研究しています。

キーワード シナプス記憶、液-液相分離、発達障害、量子生命科学

神経

シナプス記憶 (赤いと分子間相互作用が強い) 記憶の分子実体候補：液-液相分離



- 記憶
- 疾患
- 創薬



みやした えいそう
宮下 英三 准教授

腕運動の適応制御機構の理解へ向けて脳を探索する

作業仮説とその検証実験を繰り返すことにより、身近にある最後のフロンティアと呼ばれる脳の理解を深めようとしています。行動から神経細胞に至るまで複数の階層に渡ってデータ収集を行います。

キーワード 脳科学、神経科学、運動学習、ブレインマシンインターフェース

神経

ロボットアーム操作中の脳活動を計測する

医用応用としてのBMI





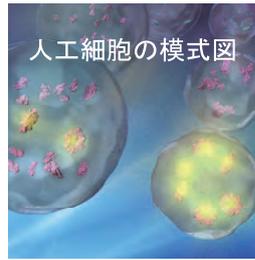
まつうら ともあき
松浦 友亮 教授

進化とデザインで創る人工細胞システムの構築と応用

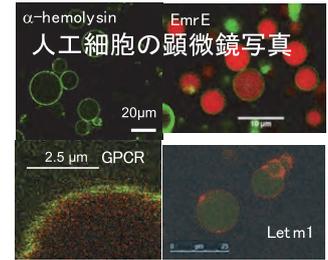
生命誕生の初期に存在したであろう原始細胞の性質を明らかにするとともに、実用化に資する分子や分子システムを構築します。

キーワード タンパク質、進化分子工学、人工細胞、生命の起源

情報・合成生物学



人工細胞の模式図



人工細胞の顕微鏡写真

20µm

2.5µm GPCR

Letm1



ふじしま こうすけ
藤島 皓介 准教授

生命システムの起源に関連した機能性タンパク質・RNA分子の研究

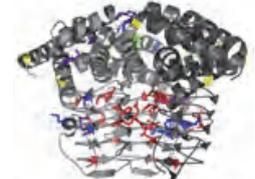
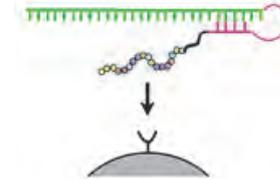
人工的に創出したタンパク質やRNAの機能や進化能を通じて、初期の生命システムの様相に迫ります。また合成生物学的手法を用いた、新規酵素の探索なども行なっています。

キーワード 生命の起源、試験管内進化、RNA、ペプチド、宇宙生物学

合成生物学

mRNAディスプレイ法を利用したペプチドの機能セレクション

限定した種類のアミノ酸から構築した人工酵素



MCGLYNN, Shawn 准教授

生命の起源と進化

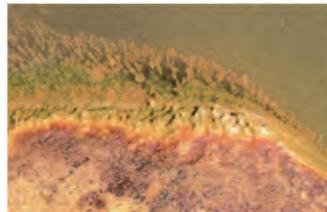
生命はどのようにして始まったのか、また、時間の経過とともにどのように変化してきたのか。これらの疑問を理解するために、化学、微生物学、安定同位体など、様々なツールやモデルシステムを使用しています。

キーワード 温泉、系統、硫化鉄、酵素

地質微生物学
プレバイオティクス化学

温泉微生物学

模擬熱水噴出孔



(生命理工学院副担当)

瀧ノ上 正浩 教授 : DNAナノテクノロジーと人工細胞・分子コンピュータの構築

柳田 保子 教授 : MEMSとバイオの融合で新領域のバイオ機能計測デバイスを開発

山村 雅幸 教授 : 細胞集団における機能・形態形成のモデリングとシミュレーション

関嶋 政和 准教授 : 機械学習と分子シミュレーションによる創薬手法の開発と生命現象の解明

(その他の助教)

猪早 敬二 : 脊椎骨発生機構の研究

奥村 英一 : 細胞周期制御とそれに至るシグナル伝達機構

嶋田 直彦 : 温度応答性高分子の生体材料応用

田中 利明 : 細胞内蛋白質輸送機構、細胞増殖制御機構 (癌細胞、両生類初期発生)

田守 正樹 : 棘皮動物の生理学、形態学

伝田 公紀 : マウス胚の発生過程における細胞増殖調節機構の解明

古田 忠臣 : 生体分子機能の生物物理学的解明

研究テーマ詳細は、以下のURLからリンクする
各研究室のウェブサイトをご覧ください。

https://educ.titech.ac.jp/bio/faculty/research_lab/



B1・B2 棟



J2・J3 棟



S2 棟



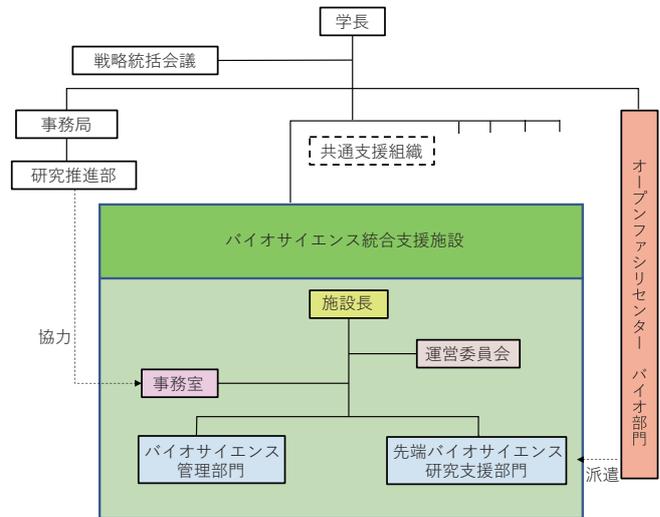
R1 棟



M6 号館

バイオサイエンス統合支援施設

バイオサイエンス統合支援施設は、バイオサイエンス研究の推進、理工学その他分野との融合研究の推進のための支援プラットフォームを構築し、理工系の再定義となるような新たなバイオサイエンス研究を創出するため、教員・技術職員・URAが協働し、最先端のバイオ研究を設計・推進する高度研究推進機能を提供する共通支援組織として、2023年4月に創設されました。本施設では、教員・高度専門職員・技術職員等が協働し、国のバイオ戦略に資する最先端バイオ研究を設計・推進する高度研究推進機能を提供し、新たな理工系バイオ融合研究を生み出す場となり、バイオサイエンスを核とする統合支援により、最先端のバイオ研究の加速と人材育成に加え、分野の隔てなく研究者や企業が集い、「バイオ駆動型」の新たな理工系バイオ融合研究を数多く創出し、バイオ戦略の目標である「世界最先端のバイオエコノミー社会」実現の原動力となることを目指しています。



◆バイオサイエンス管理部門◆

- 1) 理工学系研究者への助言、共同研究・融合研究のコーディネート
- 2) 異分野融合・産学連携を促進、新たな研究領域の戦略的な開拓
- 3) ライフサイエンスに係る様々な法規制、コンプライアンスの一元管理
- 4) 理工系研究者への啓発・コンサルティング

◆先端バイオサイエンス研究支援部門◆

- 1) バイオ研究の「場」と「最先端の知識と技術」の提供
- 2) バイオ研究に関する持続的な高度研究推進機能の提供
- 3) 実験用生物の適切な維持・管理
- 4) 生物実験に必要な実験設備・環境の提供
- 5) 異分野融合・産学連携のための戦略の立案

共通機器

DNAシーケンサー、透過型電子顕微鏡、卓上走査電子顕微鏡、電子顕微鏡関連装置、倒立共焦点顕微鏡、正立共焦点顕微鏡、倒立蛍光顕微鏡、ズーム顕微鏡、ホログラフィック顕微鏡、回転式マイクローム、クライオスタット、セルソーター、自動細胞培養観察装置、リアルタイムPCR、全自動電気泳動装置、微量分光光度計、自動細胞カウンター、自動分注装置、安全キャビネット、クリーンベンチ、CO₂インキュベーター 他



細胞制御工学研究センター

<http://www.rcb.iir.titech.ac.jp>

細胞制御工学研究センターは、2016年ノーベル生理学医学賞を受賞した大隅良典栄誉教授をセンター長として、学内外の関連研究者を結集し、これまでに類を見ない「細胞」研究コンソーシアムを実現する研究組織です。センターのミッションは、生命の基本単位である細胞の構造や機能を「観る」、分子機構解析によって「知る」、それらの知見をもとに、細胞編集や再構成によって「操作する」という過程を繰り返すための基盤的技術の確立とそれに基づく細胞の理解を目標とします。細胞レベルの生命現象の解明で国際的にも先端的な研究を進めるとともに、細胞を利用した創薬、医療などに大きく貢献できるように基礎的研究の成果を社会還元することも目指します。

【研究場所】 ずすかけ台キャンパスS2棟

【センター構成】 大隅良典栄誉教授、岩崎博史教授、木村宏教授、駒田雅之教授、田口英樹教授、中戸川仁教授、加納ふみ教授、福嶋俊明准教授、藤田尚信准教授、Alexander I May助教、井手聖助教、坪内英生助教、丹羽達也助教、堀江朋子助教、持田啓佑助教

センター代表者



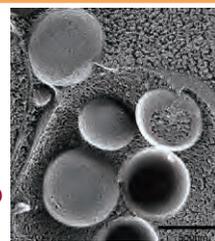
大隅 良典 栄誉教授

キーワード 酵母、オートファジー、液胞、飢餓応答

オートファジーの生理機能の総合的理解

細胞質の大規模分解、リサイクルシステムであるオートファジーの誘導条件、生理的な役割、多様な分子機構の理解を、遺伝学、生化学、細胞生物学など多様な手法を用いて進めている。

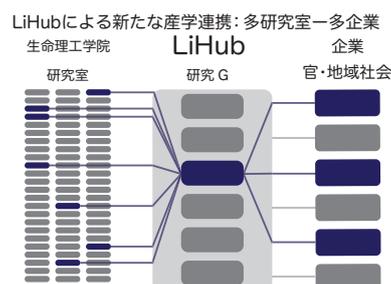
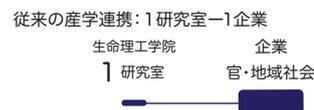
酵母のオートファジーの電顕写真



生命理工 オープンイノベーションハブ (LiHub:ライハブ)

企業や社会が、生命科学の動向を捉え、価値創造のチャンス享受することが困難になっているこの時代背景のなか、LiHubはアカデミアとしての役割を社会に果たすことを目的に2016年に創設されました。生命理工学院が国内で最多の研究室 (75研究室) を擁する生命科学と生命工学の学術組織であるメリットを活かし、生命科学と生命工学の最先端と、社会や産業との間をつなぐ協創の反応場となることを目指します。

LiHubは、従来型の閉鎖的な1対1の「1教員-1企業」の産学連携ではなく、社会や企業が求めるテーマを設定したうえで、そのテーマに興味のある企業と教員をマッチングさせ、テーマごとのLiHubグループを作ります。オープンイノベーションのコンセプトを社会実験する組織運営となっています。2022年度からは、毎年度新にLiHubグループを公募することになった。それぞれ具体的な最先端技術や情報をもって、学術的かつ産業的な価値創造を進めております。詳細はLiHubサイトをご覧ください。(http://www1.bio.titech.ac.jp/lihub/index.html)



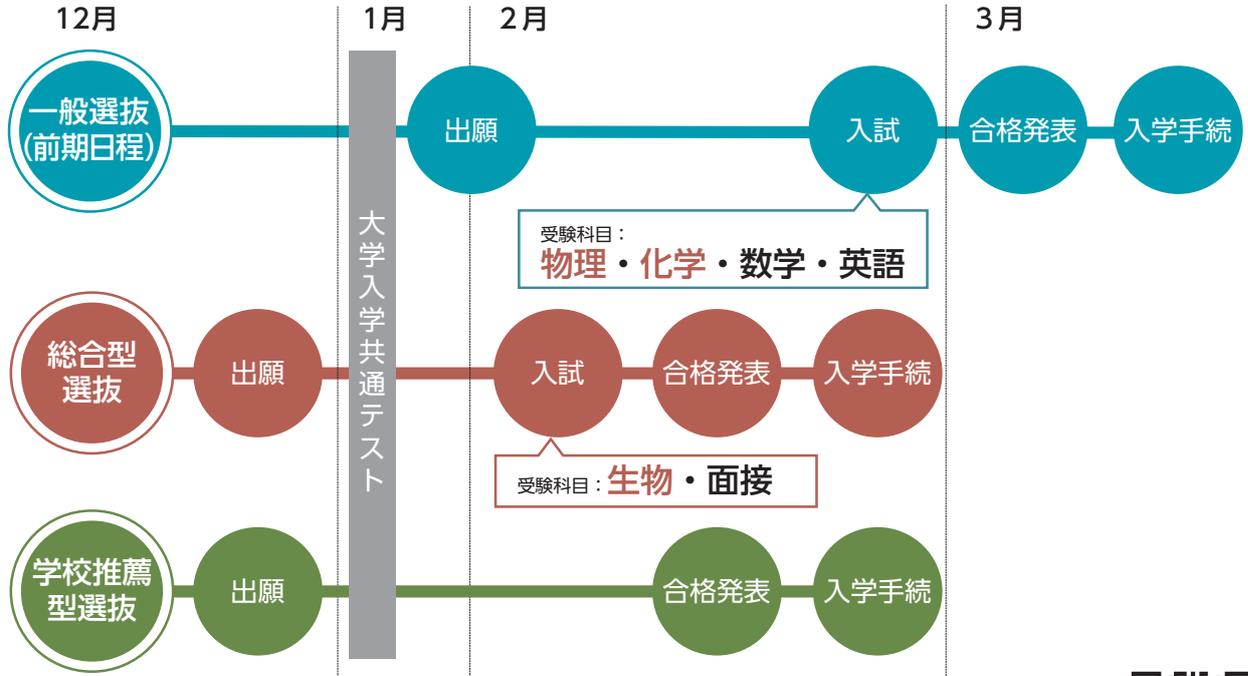
ライフサイエンス推進機器共同利用室・島津製作所精密機器分析室

生命理工学院では所有する先端機器を選抜して集約し、学内の誰もが利用できるライフサイエンス推進機器共同利用室として運用しています。共用機器室として島津製作所精密機器分析室、生体分子解析室、共有有機合成室、細胞タンパク質解析室、超遠心機室、低温実験室、水生動物実験室、微生物培養室を設置し、また実験準備や技術交流、人材育成、学際研究推進の場として、共用オフィスと汎用機器を備えた共用実験室を設けています。2022年度は核磁気共鳴装置を最新型に更新するなど、充実化を推進しています。

島津製作所精密機器分析室は、生命理工学院の創設を機に寄付提供された先端機器 (質量分析装置など) と学院保有の同社製機器を設置した共同利用分析室です。企業の有する設備やノウハウ等を活用し、東京科学大学における研究の高度化を図るアンテナショップとして利用者説明会やワークショップなどのイベントも企画され、全国的にも珍しい試みとして注目されています。

生命理工学院入試日程

生命理工学院	募集人員	内訳		
	150名	一般選抜(前期日程)	総合型選抜	学校推薦型選抜
		105名	15名	15名(一般枠) 15名(女子枠)

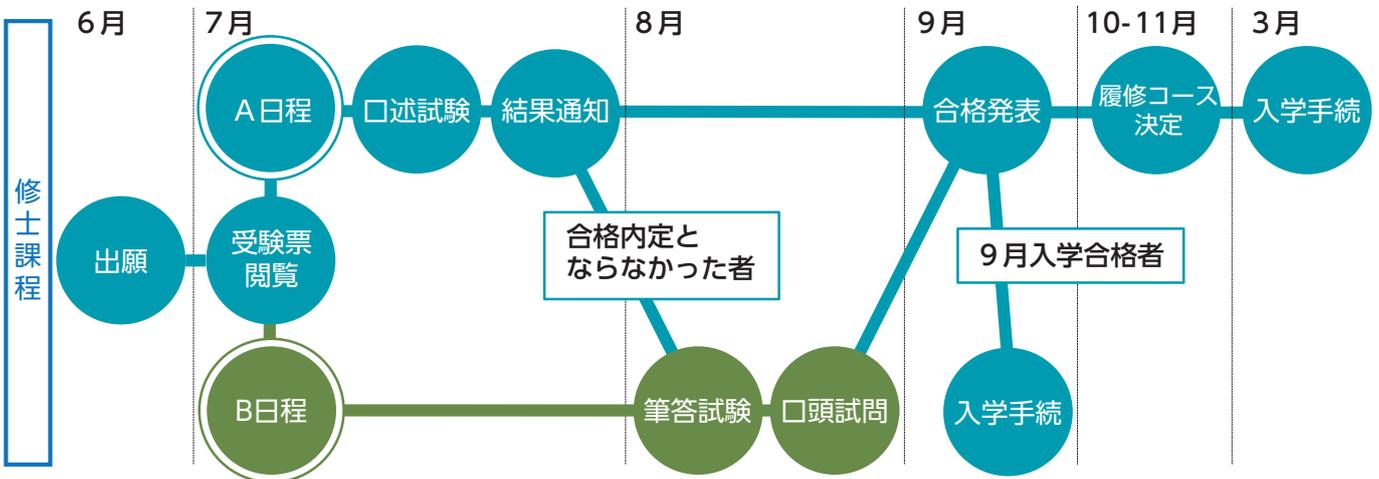


学士課程の入試詳細・最新情報については以下にアクセスしてください。

<https://admissions.isct.ac.jp/ja/013/undergraduate>



生命理工学院 生命理工学系		募集人員
		修士 168名
		博士後期 52名



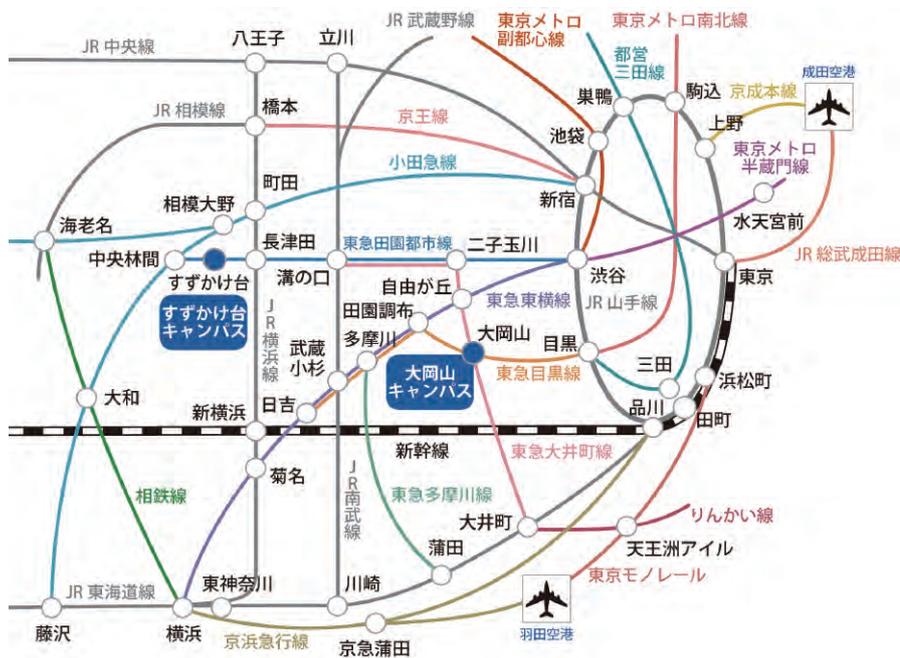
大学院課程（修士・博士後期）の入試詳細・最新情報については以下にアクセスしてください。

<https://admissions.isct.ac.jp/ja/013/graduate>





交通アクセス



□ 大岡山キャンパス

東急大井町線・目黒線
(大岡山駅下車徒歩1分)

- ・東京駅から約35分
- ・渋谷駅から約20分
- ・品川駅から約20分
- ・新横浜駅から約30分

□ すずかけ台キャンパス

東急田園都市線
(すずかけ台駅下車徒歩5分)

- ・東京駅から約60分
- ・渋谷駅から約45分
- ・品川駅から約50分
- ・新横浜駅から約30分

最新情報

東京科学大学生命理工学院ウェブサイト

<https://educ.titech.ac.jp/bio/>

生命理工学院X(旧ツイッター)アカウント

<https://x.com/SciTokyoLife/>

お問合せ先



生命理工学院入試情報

学士課程

<https://admissions.isct.ac.jp/ja/013/undergraduate>

大学院課程(修士・博士課程)

<https://admissions.isct.ac.jp/ja/013/graduate>



〒226-8501 横浜市緑区長津田町 4259 東京科学大学生命理工学院事務室

TEL 045-924-5942 (平日 9:00~17:15 [12:15~13:15 除く]) E-mail lst.adm@adm.isct.ac.jp